

2024 年 11 月

食料安全保障月報

(第 41 号)



令和 6 年 11 月 29 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2024 年 11 月食料安全保障月報（第 41 号）

目 次

概要編

I	2024 年 11 月の主な動き	1
II	2024 年 11 月の穀物等の国際価格の動向	4
III	2024/25 年度の穀物需給（予測）のポイント	4
IV	2024/25 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	4
V	今月の注目情報「米国の主要穀物等の生産・輸出動向」	5

（資料）

1－1～3	穀物等の主要輸出国の生産量（過去 10 年平均との増減比較）	1 0
1－4	穀物等の国際価格の動向	1 3
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 4
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	1 5
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	1 7
5	食品小売価格の動向	2 1
6	海外の畜産物の需給動向（ALIC 提供）	2 2
7	FAO 食料価格指数	2 4

今月のコラム

「ペルーの食事情」	2 5
-----------	-----

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2024/25 年度の輸出量は前年度に比べ 16.7%増加の見込み
	＜カナダ＞	2024/25 年度の輸出量は前月から上方修正され 25.7 百万トンの見込み（AAFC）
	＜豪州＞	2024/25 年度の小麦の収穫は順調に進展
	＜EU27＞	2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 119.8 百万トンの見込み（EC）
	＜ロシア＞	2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 81.5 百万トンの見込み
	＜ウクライナ＞	2024/25 年度 7 月～10 月の輸出量は前年度に比べ 67.0%増加
	＜中国＞	2024/25 年度の輸入量は前月から下方修正され 11.5 百万トンの見込み
2	とうもろこし	9
	＜米国＞	単収の引上げにより、生産量は前月から 1.5 百万トン上方修正
	＜ブラジル＞	2024/25 年度の生産量は前年度から 4.1%増加する見込み
	＜アルゼンチン＞	2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み
	＜ウクライナ＞	2024/25 年度の生産量は、前年度より 19.4%減少する見込み

＜中国＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.1%増加する見込み

3 コメ・・ 1 5

＜タイ＞ 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 19.4%減少する見込み

＜米国＞ 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 1.9%増加する見込み

＜中国＞ 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 38.7%減少する見込み

＜インド＞ 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 49.0%増加する見込み

＜ベトナム＞ 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 17.4%減少する見込み

II 油糧種子

大豆・・ 2 1

＜米国＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 7.2%増加する見込み

＜ブラジル＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み

＜カナダ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 3.1%増加する見込み (AAFC)

＜中国＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 0.7%減少する見込み

＜アルゼンチン＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 5.8%増加する見込み

(参考 1) 本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2024/25 年度)・・・ 2 7

(参考 2) 単位換算表・・ 2 7

(参考 3) 各国のクロップカレンダー一覧 (主要品目毎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 8

【利用上の注意】

表紙写真：ブラジルパラナ州ウライ市の大豆畑。長期の降雨不足に悩まされたが、10月上旬の降雨により同月 12 日に作付けが可能となった。現在の生育ステージは 2 葉期であり、作柄は良好。(パラナ州 2024 年 11 月 4 日)

(概要編)

I 2024 年 11 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2024/25 年度の作況について、北半球ではとうもろこしや大豆等の作物が収穫期を迎えている。なお、南半球では大豆等の作物が作付期から生育初期を迎えている。

2024/25 年度の状況について、品目別にみると、11 月の米国農務省（USDA）の需給報告によれば、小麦については、EU、ロシアで単収・収穫面積ともに前年度より減少するものの、豪州、米国、中国、インド、アルゼンチンで単収・収穫面積ともに増加、カザフスタン、カナダで単収が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022 年 3 月に史上最高を更新した小麦の国際相場は侵攻時の水準を下回ったものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する 4 者合意（黒海穀物イニシアティブ）については 2023 年 7 月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EU 向け輸出の動向も含め注視が必要。

とうもろこしについては、ブラジル、南アフリカで単収・収穫面積ともに前年度より増加、中国で収穫面積が増加するものの、ウクライナで単収・収穫面積ともに減少、ロシア、EU で単収が減少、米国で収穫面積が減少すること等から、世界全体の生産量は前年度を下回る見通し。

大豆については、ブラジル、米国、アルゼンチンで単収・収穫面積ともに増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数については、主に植物油、乳製品、砂糖等の価格の上昇等により、9 月の 124.9 から、10 月（最新値）は 127.4 に上昇（参考：2023 年 10 月 120.7、2022 年 10 月 135.4、2021 年 10 月 133.2、2020 年 10 月 101.4）。海上運賃については、バルチック海運指数（穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数）が、直近 5 カ年の平均値より約 2 割低い水準で推移。

早期注意段階の継続について

緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、2021 年 7 月に、主要輸入農産物の国際価格や海上運賃の上昇、国際的な物流の遅れ等の当時の状況を踏まえて適用。2024 年 11 月も引き続き適用した一方で、主要穀物等の国際相場や海上運賃についてはここ最近下落傾向で推移しており、引き続きその動向に留意。

【参考】早期注意段階について（農林水産省HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



ウクライナの生産・輸出動向

USDA の 11 月需給報告によれば、2024/25 年度の小麦の生産量は、収穫面積は増加するものの単収が減少することから、前年度より 0.4%減少し 2,290 万トンとなる見込み。また、とうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに減少することから、前年度より 19%減少し 2,620 万トンとなる見込み。2024/25 年度の小麦の輸出量は、生産量及び期首在庫の減少を受け、前年度より 14%減少し 1,600 万トンとなる見込み。とうもろこしの輸出量も前年度より 22%減少し 2,300 万トンとなる見込み。

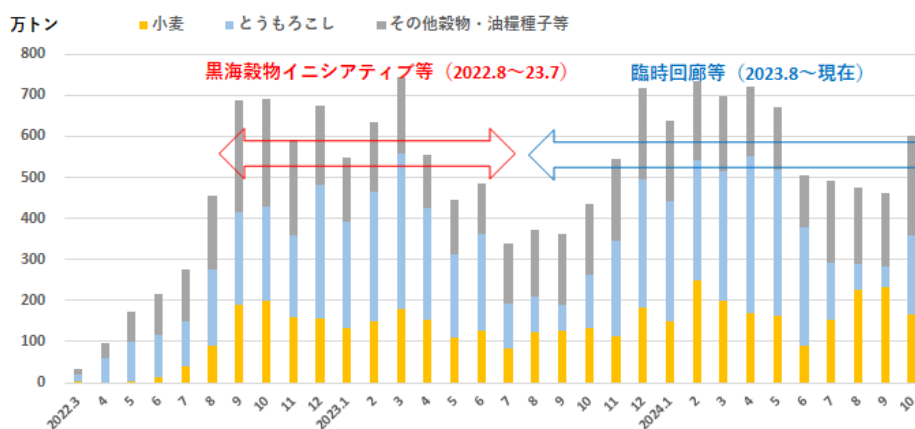
ウクライナ農業政策食料省によれば、11 月 7 日現在、2024/25 年度の小麦の収穫作業は終了し、とうもろこしの収穫進捗率は 83%である。また、11 月 11 日現在、2025/26 年度の冬小麦の作付進捗率は 97%である。ウクライナ気象センターによれば、10 月末現在、冬小麦は出芽期から分けつ期で作柄は良好及び並み、一部で非常に良好。降水量は十分ではないものの、10 月下旬は晴天が多く、昼夜の寒暖差が大きかったため露や霜が多く発生し、地表面や大気の湿度保持に寄与した。

臨時回廊からの輸出状況

2022年 7 月 22 日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの 4 者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年 8 月以降、オデーサ港等 3 港（オデーサ港、チョルノモルシク港、ビブジェヌイ港）からの輸出が再開したが、2023年 7 月 17 日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022年 8 月～23年 7 月）は、穀物・油糧種子等 6,846 万トン（うち、小麦 1,728 万トン、とうもろこし 2,949 万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報し、2023年 8 月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU 域内を経由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が大半を占めている。

（参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022 年 3 月～2024 年 10 月）



出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

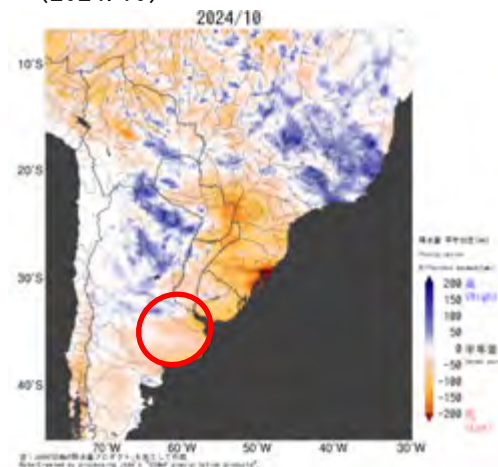
注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

1 アルゼンチン：開花期の乾燥により小麦の生産量が前月から下方修正

USDA によれば、2024/25 年度の小麦の生産量は 17.5 百万トンと、前月予測から 3 % 下方修正されたものの、前年度から 10% 増加する見込み。ラニーニャ現象の影響を受け 60 年に一度といわれる干ばつに見舞われた 2022/23 年度からは大きく回復したものの、過去 5 年平均を 0.5% 下回る水準。収穫面積は 600 万ヘクタールと、前月予測から変更はなく、前年度から 8 % 増加する見込み。単収は 2.92 トン/ヘクタールと前月予測から 3 % 下方修正されたものの、前年度から 3 % 増加する見込み。

アルゼンチン的小麦は北部地域では 9 月に、南部地域では 10 月に開花期を迎える。9 月に開花期を迎えたコルドバ州やサンタフェ州では例年より降雨が少なく、最大生産州のブエノスアイレス州では 10 月の開花期の降雨が例年より少なかった。9 月から 10 月にかけての気温が例年より高温で乾燥傾向となり、単収に悪影響を及ぼしたことを受け、生産量が前月予測から下方修正された。収穫作業は 11 月中旬から始まる見込み。

図 1：アルゼンチンの降雨量（平年対差）
（2024. 10）



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMA1）

2 ブラジル：10 月の降雨により大豆の作付作業が加速

USDA によれば、2024/25 年度の大豆の生産量は史上最高の 1 億 6,900 万トンと、前月予測からの変更はなく、前年度から 10% 増加し、過去 5 年平均を 18% 上回る見込み。収穫面積は 4,730 万ヘクタールと、前年度から 3 % 増加し、5 年平均を 13% 上回り、単収は 3.57 トン/ヘクタールと、前年度から 7 % 増加し、過去 5 年平均を 4 % 上回る見込み。

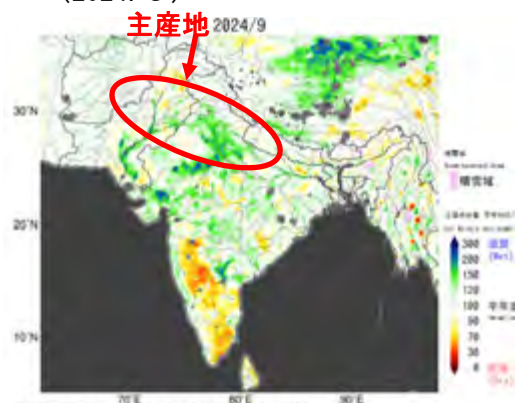
主要生産州の中西部のマット・グロソ州及びマットグロソ・ド・スール州、南部のパラナ州では、9 月までの数か月にわたり高温乾燥が続き土壌水分量が著しく不足したため、農家は作付作業を開始することができなかった。その後、10 月上旬に十分な降雨に恵まれ、作付作業を急速に加速させた。CONAB によれば、11 月 3 日現在、大豆の作付進捗率は 53% と、9 月の大幅な遅れを取り戻し、前年同期（48%）を上回っている。

3 インド：記録的な単収によりコメは史上最高の生産量を記録

USDA によれば、2024/25 年度のインドのコメ生産量は史上最高の 1 億 4,500 万精米トンと、前月予測から 3 % 上方修正され、前年度から 5 % 増加する見込み。収穫面積は史上最高の 5,000 万ヘクタールと、前年度より 5 % 増加し、過去 5 年平均を 8 % 上回っている。単収も史上最高の 4.35 ㌦/ヘクタールと、前年度より 1 % 増加し、過去 5 年平均を 4 % 上回っている。

史上最高の生産量は、生産者が綿花より単収が高くリスクが少ないコメに作付けをシフトさせたことによる作付面積の増加とカリフ米（雨季米）の生育期に天候に恵まれたことによる。カリフ米は 11 月上旬までに収穫される。

図 2：インドの土壌水分量（平年対差）
（2024. 9）



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMA1）

Ⅱ 2024 年 11 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、10月末、210ドル/トン近くで推移。11月に入り、米国産冬小麦の作柄改善やドル高等を受けて下落し、11月中旬現在、190ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、10月末、160ドル/トン台前半で推移。11月に入り、米国産のメキシコ向け等の新たな輸出成約報告及び米国農務省需給報告での米国産の生産量引下げ等を受けて上昇し、11月中旬現在、160ドル/トン台後半で推移。

コメは、10月末、520ドル/トン台前半で推移。11月に入り、インドネシア政府の入札により下支えされたものの、輸出需要の低迷や2024/25年度の新穀の流通によるタイ国内のコメ価格の低下等から、11月中旬現在、520ドル/トン台前半で推移。

大豆は、10月末、360ドル/トン台前半で推移。11月に入り、米国農務省需給報告における米国産の生産量引下げ及び植物油の上昇に連れ高等を受けて370ドル/トン台前半まで上昇したものの、米国大統領選結果を受けた対中関税やバイオ燃料政策への懸念等を受けて下落し、11月中旬現在、360ドル/トン台前半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、コメはタイ国家貿易委員会価格

Ⅲ 2024/25 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より0.4%増の28.28億トン。消費量は、前年度より1.1%増の28.48億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り27.0%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前年度より、とうもろこしで減少も、小麦、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.28億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.48億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、コメで増加も、小麦、とうもろこしで減少し、穀物全体で減少し、5.00億トンの見込み。

期末在庫量は、7.70億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

(注：数値は11月のUSDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

Ⅳ 2024/25 年度の油糧種子需給(予測)のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り6.82億トン。消費量は前年度を上回り6.61億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率は前年度を上回る22.3%となる見込み。

(注：数値は11月のUSDA「Oilseeds: World Markets and Trade」等による)

V 今月の注目情報: 米国の主要穀物等の生産・輸出動向

米国の2024/25年度のとうもろこし・大豆の収穫は終盤を迎え、大豆は史上2番目、とうもろこしは史上3番目の生産量が見込まれている。収穫が既に終了している小麦も、前年度より1割増産となった。ミシシッピ川の水位低下及びパナマ運河の航行制限の影響を受けた2023/24年度の米国産の輸出動向を踏まえ、豊作基調となっている2024/25年度の輸出見通しをまとめた。

注：文中の「2024/25年度」等は市場年度で、米国のとうもろこし及び大豆は2024年9月から2025年8月、小麦は2024年6月から2025年5月。（品目別需給編P.27参照）。

1 主要穀物及び大豆の生産動向

(1) 小麦

USDAによれば、2024/25年度の小麦の生産量は5,365万トンと前年度と比べ9.3%増、過去5年平均（4,818万トン）と比べても11.4%増となる見込み。収穫面積が1,557万ヘクタールと前年度から3.8%増加し、単収も3.45トン/ヘクタールと前年度から5.5%増加することによる。冬小麦、春小麦ともに、生育に適した降雨と気温に恵まれ前年度の生産量を上回っている。

(2) とうもろこし

USDAによれば、2024/25年度のとうもろこしの生産量は3億8,464万トンと、史上最高の前年度から1.3%減少するものの、史上3番目となる見込み。単収が11.49トン/ヘクタールと前年度から3.2%増加するものの、多くの農家が大豆に作付けを切り替えたため、収穫面積が3,347万ヘクタールと前年度から4.4%減少することによる。

(3) 大豆

USDAによれば、2024/25年度の大豆の生産量は1億2,142万トンと前年度から7.2%増加し、史上2番目となる見込み。収穫面積が3,491万ヘクタールと前年度から4.9%増加し、単収も3.48トン/ヘクタールと前年度から2.4%増加することによる。

とうもろこし、大豆ともに、作付期に温暖な気候と降雨を受けて作付けが順調に進展した。生育期も温暖で7月上旬に降雨に恵まれ、収穫期の9月に高温乾燥が見られたものの収穫が進展し、作柄は前年度より改善するとみられる。

図1 米国の小麦の生産量

(百万トン)

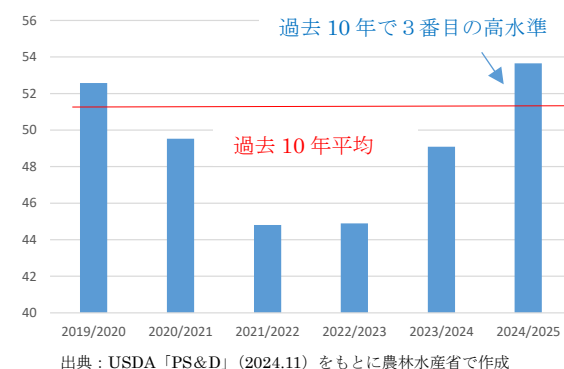


図2 米国のとうもろこしの生産量

(百万トン)

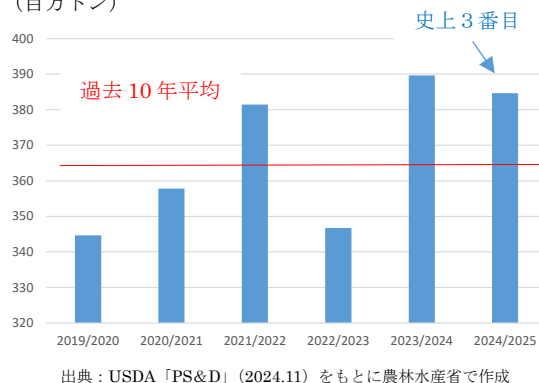
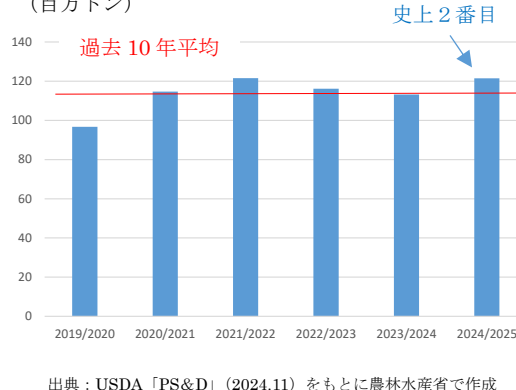


図3 米国の大豆の生産量

(百万トン)



2 2023/24 年度の輸出動向

(1) ミシシッピ川の水位低下による影響

米国産のとうもろこし・大豆は、8割以上が中西部のコーンベルトで生産され、大半はミシシッピ川の水運を利用してメキシコ湾（ガルフ）から輸出される。ただし、日本等のアジア向けについては、鉄道を利用して米国西海岸（Pacific Northwest：PNW）まで輸送され、輸出される場合もある。

2022 年以降、ミシシッピ川の水量低下が度々発生しており、特定の流域において川幅が狭く水深が浅くなり、喫水制限が厳しくなることで、航行するはしけ（河川等の内陸水路及び港湾内輸送用の小型船舶。複数を連結して利用される）の編成する列数や積み荷の量に制限がかかることで、輸送日数が2～3日増加し、水運コストが上昇している。

ミシシッピ川の水量低下への対策として、米国政府は水位が低下したエリアに米国陸軍工兵隊を派遣し、川底の浚渫（しゅんせつ）作業を実施している。米国穀物協会等の関係者によれば、米国陸軍工兵隊の活動により、2022 年と比較して、2023 年、2024 年の船舶航行の状況は改善している。

さらに、新たな閘門（水位の異なる川をスムーズに船舶が通航するための施設）をロックダム 25（図5 参照）に増設する予定であり、水位をコントロールし、はしけの連結を解除して部分的に通過し、再度通過する手間を減らすことにより、船舶の航行効率を向上させ、米国の輸出競争力を維持することが期待されている。

(2) パナマ運河の航行制限による影響

米国産のとうもろこし・大豆は、前述のとおり中西部コーンベルトからメキシコ湾（ガルフ）に運ばれ、そこからパナマ運河経由で日本に輸出されることが多い。なお、PNW から輸出される場合は、日本までの航行日数は短く海上運賃は相対的に低いものの、中西部コーンベルトから PNW への鉄道輸送コストが高いため、ガルフ出しパナマ運河経由と比較して割高になることが従来は多かった。

図4 ミシシッピ川の流域図



出典：USDA「Crop Production Map」をもとに農林水産省で作成

図5 ミシシッピ川の新閘門の建設



出典：米国陸軍工兵隊の資料に農林水産省で追記

図6 米国産とうもろこし、大豆の日本向けの主な輸出ルート



出典：農林水産省作成

注：地図上のルートは概ねのルートである。

通常、パナマ運河では、1日 38～40 隻の船舶が航行している。2023 年 11 月、降雨不足からパナマ運河において通航制限が実施され、同年 12 月には1日当たりの航行隻数が 22 隻まで制限された。商社等の情報によれば、高い値段を出した者に優先権を与えるオークション形式が導入され、LPG（液化天然ガス）船やコンテナ船等の利益率が高い船舶が優先権を獲得したため、穀物輸送の大半を占めるばら積み船は実質的に航行できなくなった。

加えて、12 月中旬に入り、イスラエルとハマスとの戦闘が継続する中、イエメンの親イラン武装組織フーシ派が、スエズ運河経由で地中海とインド洋を結ぶ紅海を航行する商船を攻撃しており、運送各社は貨物輸送をアフリカ喜望峰経由等に迂回させていた。

これらを受けて、米国産とうもろこし及び大豆は、11 月のパナマ運河の通航制限開始当初はパナマ運河の水位低下で地中海→スエズ運河→紅海→インド洋経由ルートを選択し、紅海におけるフーシ派による紅海での商船攻撃以降は、喜望峰経由等へ迂回するルートとなり、その結果、航海日数の増加によるコスト増が発生した。

（3）2023/24 年度の輸出実績

USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Total」によれば、2023/24 年度のとうもろこしの輸出量は 1,725.2 万トンと、国際的なとうもろこし価格の低下に伴う需要増加から前年度（1,602.9 万トン）から 7.6% 増加した。日本向け輸出量（日本向けと明確に分かるもののみ集計）については、94.1 万トンと前年度（70.4 万トン）より 33.6%増加し、そのうち、メキシコ湾（ガルフ出し）の輸出量は 59.7 万トンと前年度（64.4 万トン）から 7.3%減少した一方、米国西海岸（PNW）経由は 29.7 万トンと前年度（6.0 万トン）から 397.3%増加している。このことから、日本向けのとうもろこしについては、輸出港がメキシコ湾（ガルフ）から米国西海岸（PNW）に一定程度シフトしていたとみられる。

2023/2024 年度の大豆の輸出量は 3,560.1 万トンと、国際的な大豆価格の低下に伴う需要増加を受けて、前年度（3,359 万トン）から 6.0%増加した。日本向け輸出量（日本向けと明確に分かるもののみ集計）については、211.7 万トンと前年度（188.7 万トン）より 12.2%増加し、そのうち、

図 7 最近の世界の海運のチョークポイントの状況



出典：報道情報等をもとに農林水産省で作成

表 1 米国のとうもろこしの輸出量と輸出港

輸出港	輸出量（万トン）		対前年度比 （％）
	2022/23年度	2023/24年度	
メキシコ湾（ガルフ）	537.8	588.1	9.4
太平洋西海岸（PNW）	52.3	53.3	1.9
五大湖	0.5	0.5	0.0
大西洋	39.7	42.9	7.9
内陸	969.6	1037.5	7.0
計	1,602.9	1,725.2	7.6

出典：USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

表 2 米国の日本向けとうもろこしの輸出量と輸出港

輸出港	輸出量（万トン）		対前年度比 （％）
	2022/23年度	2023/24年度	
メキシコ湾（ガルフ）	64.4	59.7	-7.3
太平洋西海岸（PNW）	6.0	29.7	397.3
大西洋	0	0.2	-
計	70.4	94.1	33.6

出典：USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

注：向け先不明の輸出量を省いて集計。内陸については、仕出し州及び聞き取り情報をもとに輸出港を推定して集計。

表 3 米国大豆の輸出量と輸出量

輸出港	輸出量（万トン）		対前年度比 （％）
	2022/23年度	2023/24年度	
メキシコ湾（ガルフ）	143.4	153.6	7.1
太平洋西海岸（PNW）	36.7	37.0	0.7
五大湖	2.3	2.3	0.0
大西洋	155.7	157.6	1.2
内陸	3,021.7	3,209.6	6.2
計	3,359.8	3,560.1	6.0

出典：USDA「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

メキシコ湾（ガルフ出し）の輸出量は 205.0 万トンと前年度（186.7 万トン）から 9.8%増加し、米国西海岸（PNW）経由も 1.6 万トンと前年度（1.1 万トン）から 46.4%増加した。関係者の情報によれば、大豆の輸出ルートについては、米国大西洋岸（PNW）へのシフトは起こらず、メキシコ湾（ガルフ）出しがパナマ運河経由から喜望峰経由に概ねシフトしたとみられる。

3 2024/25 年度の輸出動向

（1）ミシシッピ川の水量低下による影響

USDA によれば、ミシシッピ川中流のセントルイスにおける 2023 年 10 月 21 日から 2024 年 10 月 19 日までの穀物輸送量は、過去 3 年平均を下回っている。ミシシッピ川では航行可能な流域が減少しているため、輸送日数の 2～3 日の遅延が見込まれる。

一方、ブラジルでは降雨不足によるアマゾン川の水位低下を受けて、通常は北部港へ水運で輸送される穀物が南部サントス港に輸送されている。

2024 年 11 月上旬現在、米国産の価格は、とうもろこし・大豆ともに、新穀の収穫を受けて、新穀の作付段階にあるブラジル産より低く、アルゼンチン産と同程度の水準で推移している（右図 8，9 参照）。

なお、10 月 1～3 日に発生した米国東海岸及びメキシコ湾岸での港湾ストライキは、コンテナ船が対象であり、穀物輸出の大部分を占めるばら積み船は対象外だったため、穀物輸出に与える影響は軽微とみられる。

（2）パナマ運河の通航制限の状況

パナマ運河庁は、雨季の到来に伴い順次通航制限を緩和しており、9 月 1 日からは 36 隻まで増加させている。

ただし、商社等の情報によれば、昨年の降雨不足に伴う通航制限の実施時に、パナマ運河庁は通航ルールを変更し、ブッキング枠とオークション枠のいずれかを購入することにより通航できる仕組みとなったため、パナマ運河の通行料金は、通航制限時から下落し、ばら積み船でも通航できる状況となったものの、従来の通常時に比べて高止まりする可能性もある。

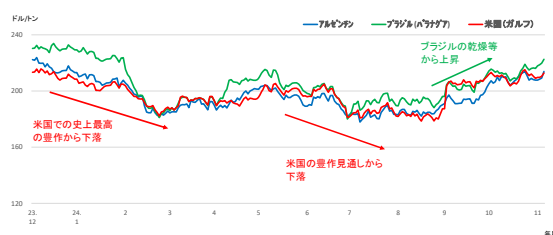
表 4 米国の日本向け大豆の輸出量と輸出港

輸出港	輸出量（万トン）		対前年度比（%）
	2022/23年度	2023/24年度	
メキシコ湾（ガルフ）	186.7	205.0	9.8
太平洋西海岸（PNW）	1.1	1.6	46.4
大西洋	1	0	-
計	188.7	211.7	12.2

出典：USDA 「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省で作成

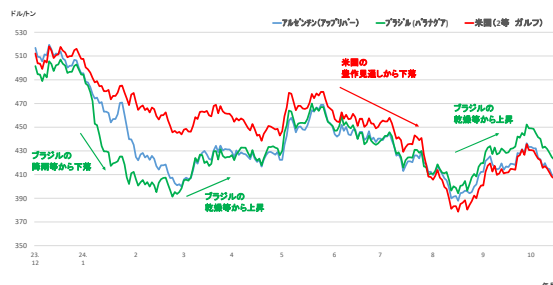
注：向け先不明の輸出货量を省いて集計。内陸については、仕出し州及び聞き取り情報をもとに輸出港を推定して集計。

図 8 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



出典：IGC のデータをもとに農林水産省で作成

図 9 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



出典：IGC のデータをもとに農林水産省で作成

表 5 パナマ運河の 1 日当たりの航行可能隻数

日付	許可船舶数(隻/日)
2023年 7 月 30 日	32 隻
11 月 3 日	25 隻
12 月	22 隻
2024年 1 月 17 日	24 隻
2 月	18 隻
5 月 7 日	24 隻
5 月 30 日	32 隻
7 月 11 日	33 隻
7 月 22 日	34 隻
8 月 5 日	35 隻
9 月	36 隻

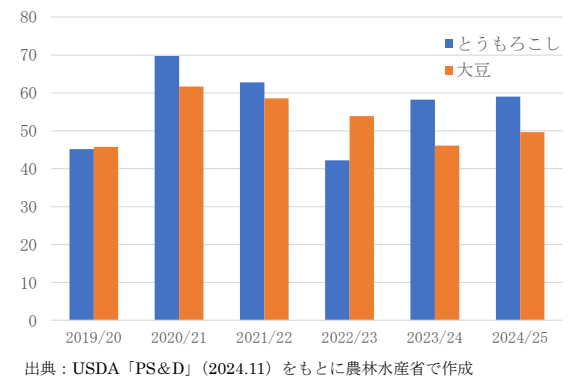
出典：パナマ運河庁の発表をもとに農林水産省で作成

（３） 2024/25 年度の輸出見通し

USDA によれば、2024/25 年度のとうもろこしの輸出量は 5,906 万トンと、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度から 1.4%増加する見込み。

2024/25 年度の大豆の輸出量は 4,967 万トンと、世界全体の搾油用需要が増加する見通しを受けて前年度から 7.7%増加する見込み。「OIL WORLD Weekly」（2024.10.18）によれば、パーム油等の油糧種子の減産による価格上昇に伴い、相対的に安価な大豆の需要が高まっている。

図 10 米国のとうもろこし・大豆の輸出量の推移



（４） 今後の見通し

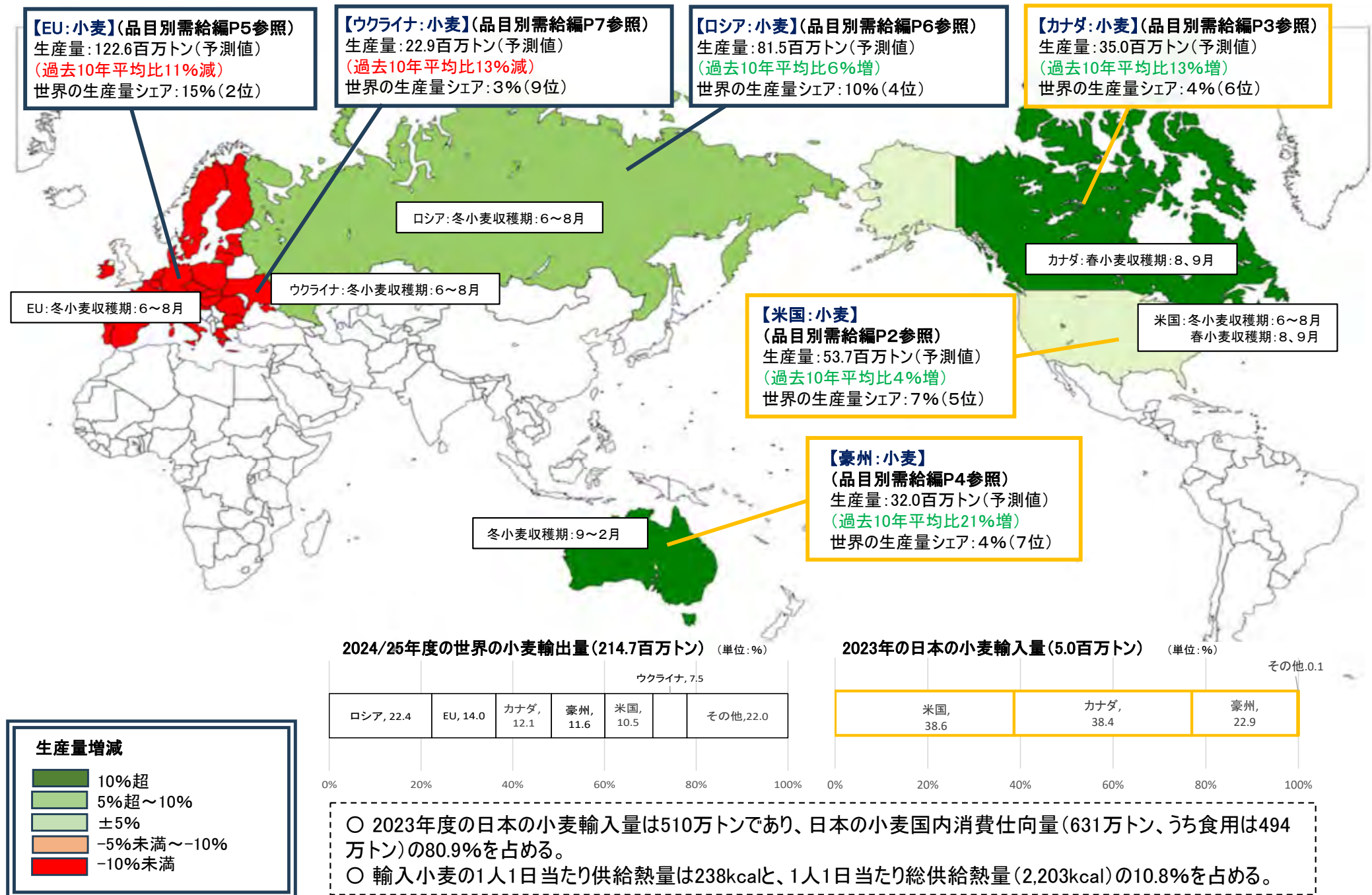
2024/25 年度はとうもろこし、大豆ともに豊作の見通しとなり、ミシシッピ川の水位低下が見られるものの、輸出競合国のブラジルでも河川の水位低下が発生しており、現時点で米国産が相対的な価格競争力を有しているため、輸出量は前年度に比べて増加するとみられる。

パナマ運河については、雨季の到来を受けて通航制限が緩和されている。日本向けのとうもろこしの輸出は、前年度に米国西海岸（PNW）のシェアが増えたものの、2024/25 年度はメキシコ湾（ガルフ）出しパナマ運河経由にシェアが戻るとみられる。ただし、商社等は海上運賃と鉄道運賃等を踏まえて輸送ルートを決するため、海上運賃・鉄道運賃の状況による。

2024 年 11 月 5 日、米国大統領選挙の投票が実施され、共和党のドナルド・トランプ前大統領が民主党のカマラ・ハリス副大統領を破って当選し、2025 年 1 月に大統領に就任する。

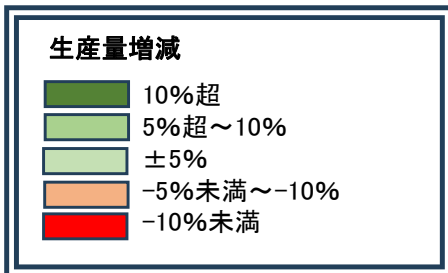
報道情報によれば、大統領選挙の結果を受けて、中国はトランプ大統領の就任前に大豆を買い急ぐ動きを見せている。背景には米中での関税の引上げ等の懸念があるためとみられ、世界的な穀物相場にも影響するため、米国の政治情勢を引き続き注視する必要がある。

資料1ー1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(11月版)

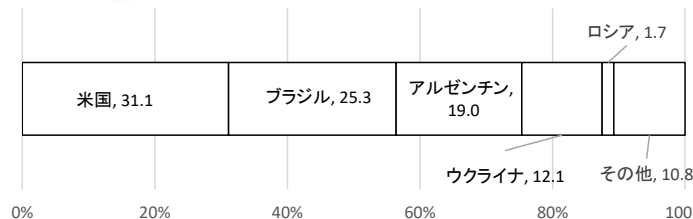


出典:USDA「PS&D」(2024.11)、財務省「貿易統計」(2023年の実績値)、農林水産省「令和5年度食料需給表」、AMIS「Supply and demand balances manual」をもとに農林水産省で作成。

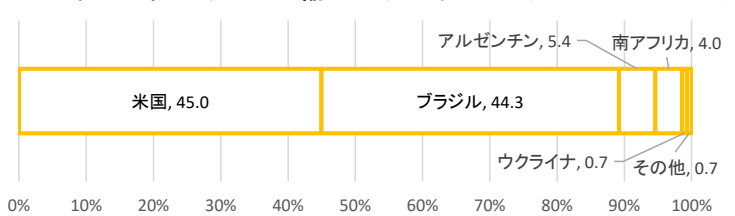
資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(11月版)



2024/25年度の世界のとうもろこし輸出量(189.8百万トン) (単位: %)

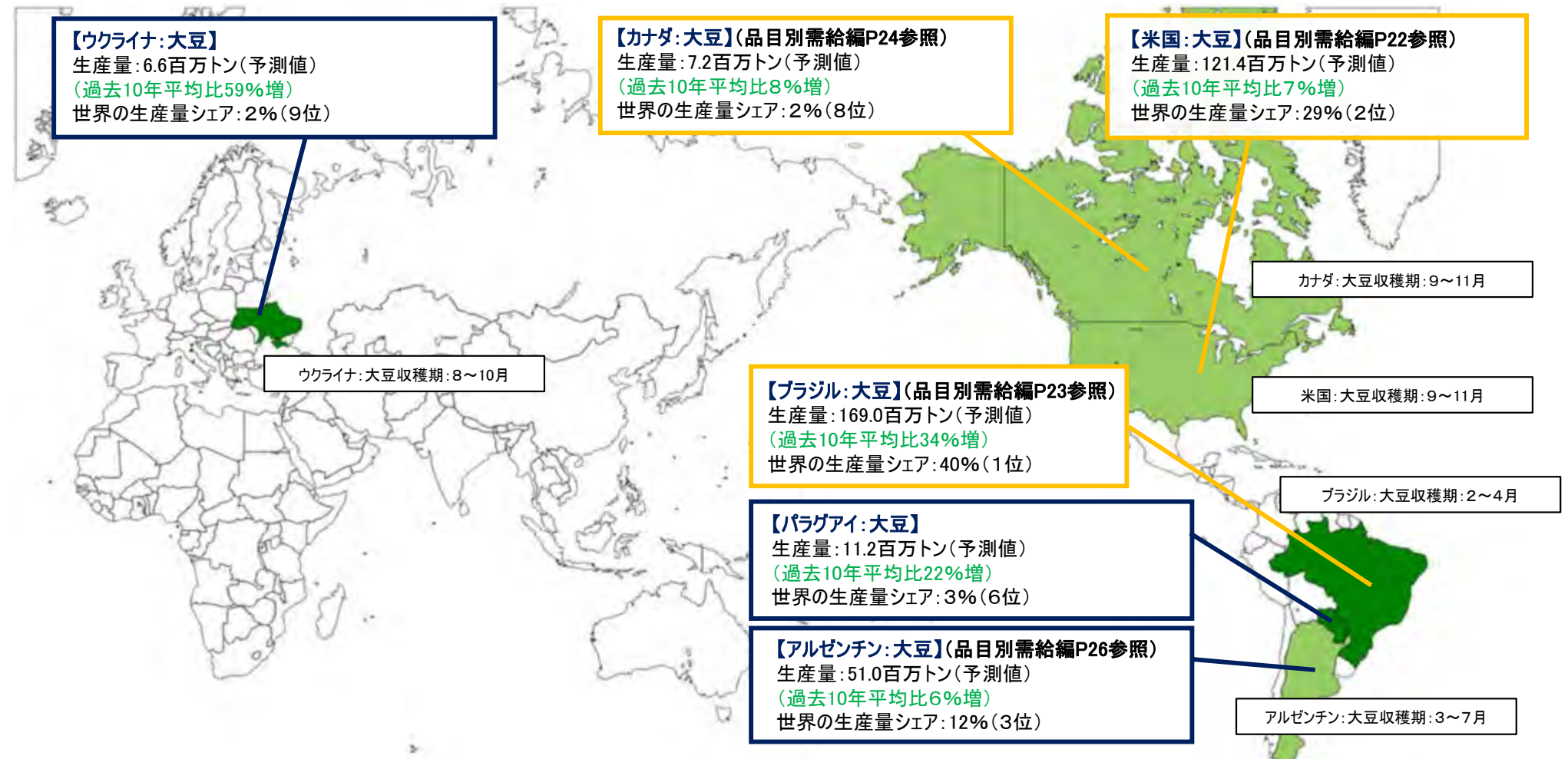


2023年の日本のとうもろこし輸入量(14.9百万トン) (単位: %)

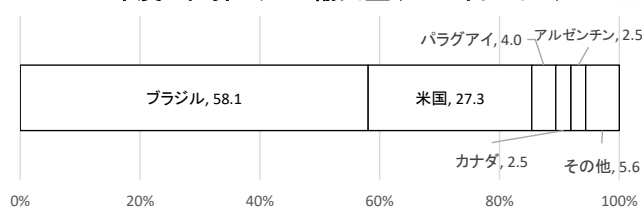


○ 2023年度の日本のとうもろこし輸入量は1,499万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,486万トン、うち飼料用は1,159万トン)のほぼ全量を占める。

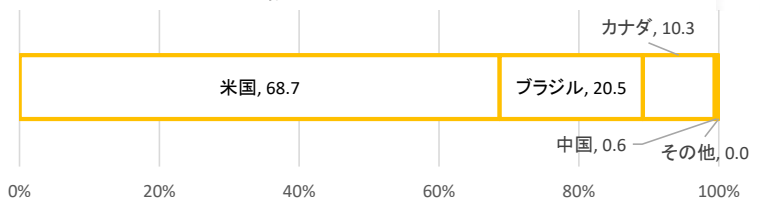
資料1ー3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2024/25年度(11月版)



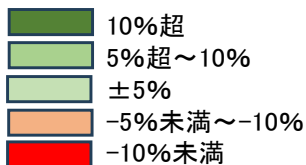
2024/25年度の世界の大豆輸出力(181.7百万トン) (単位:%)



2023年の日本の大豆輸入量(3.16百万トン) (単位:%)



生産量増減



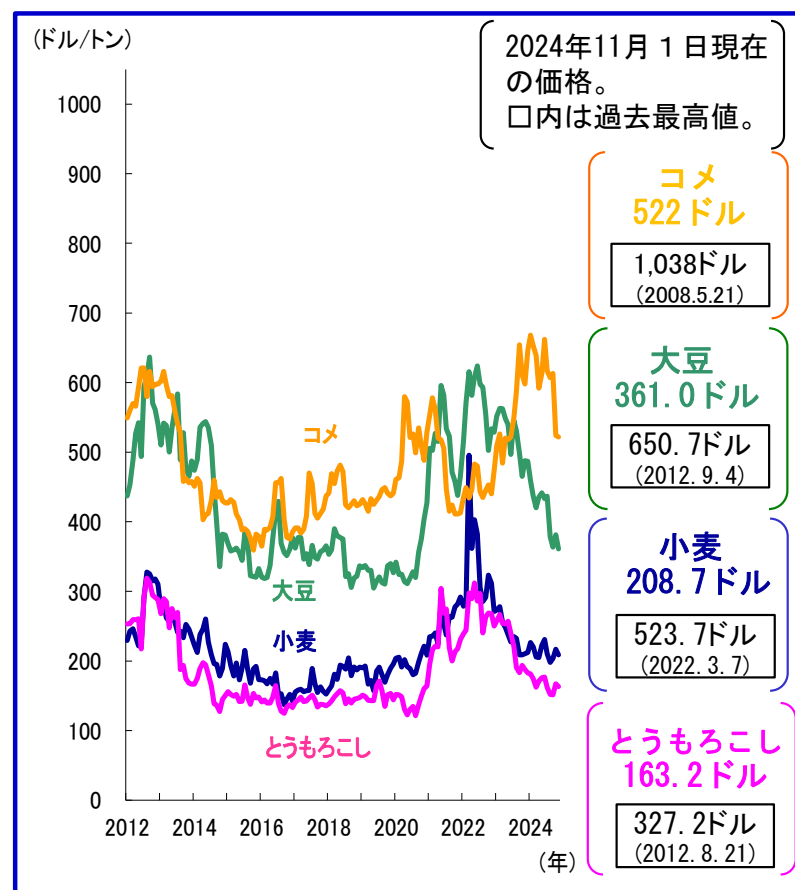
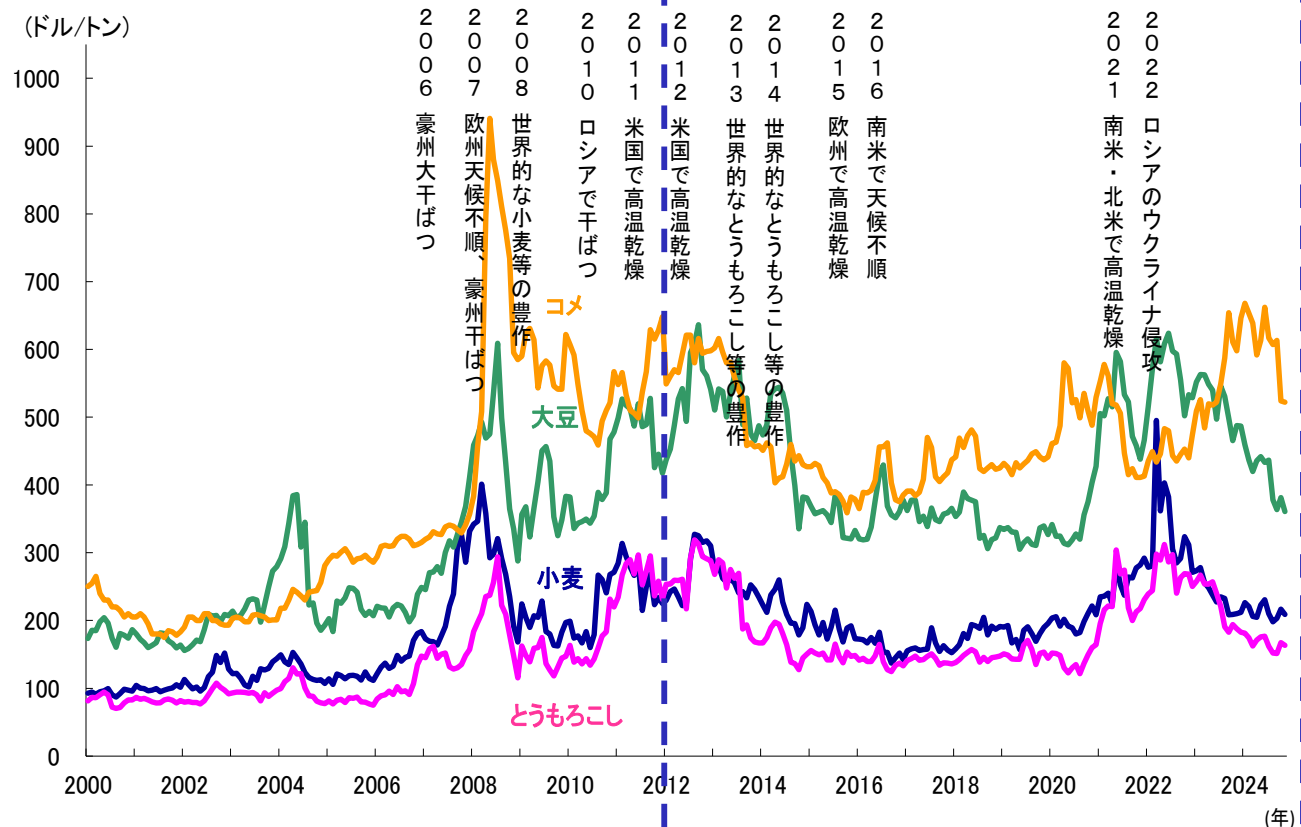
- 2023年度の日本の大豆輸入量は307万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(356万トン、うち大豆油などの加工用は255万トン、食用は87万トン)の86.2%を占める。
- 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は55kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の2.5%を占める。

出典:USDA「PS&D」(2024.11)、財務省「貿易統計」(2023年の実績値)、農林水産省「令和5年度食料需給表」、AMIS「Supply and demand balances manual」をもとに農林水産省で作成。

資料 1－4 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。一方で、とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、インドの一部輸出規制解除等を受け低下。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要に加え、ウクライナ情勢により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向



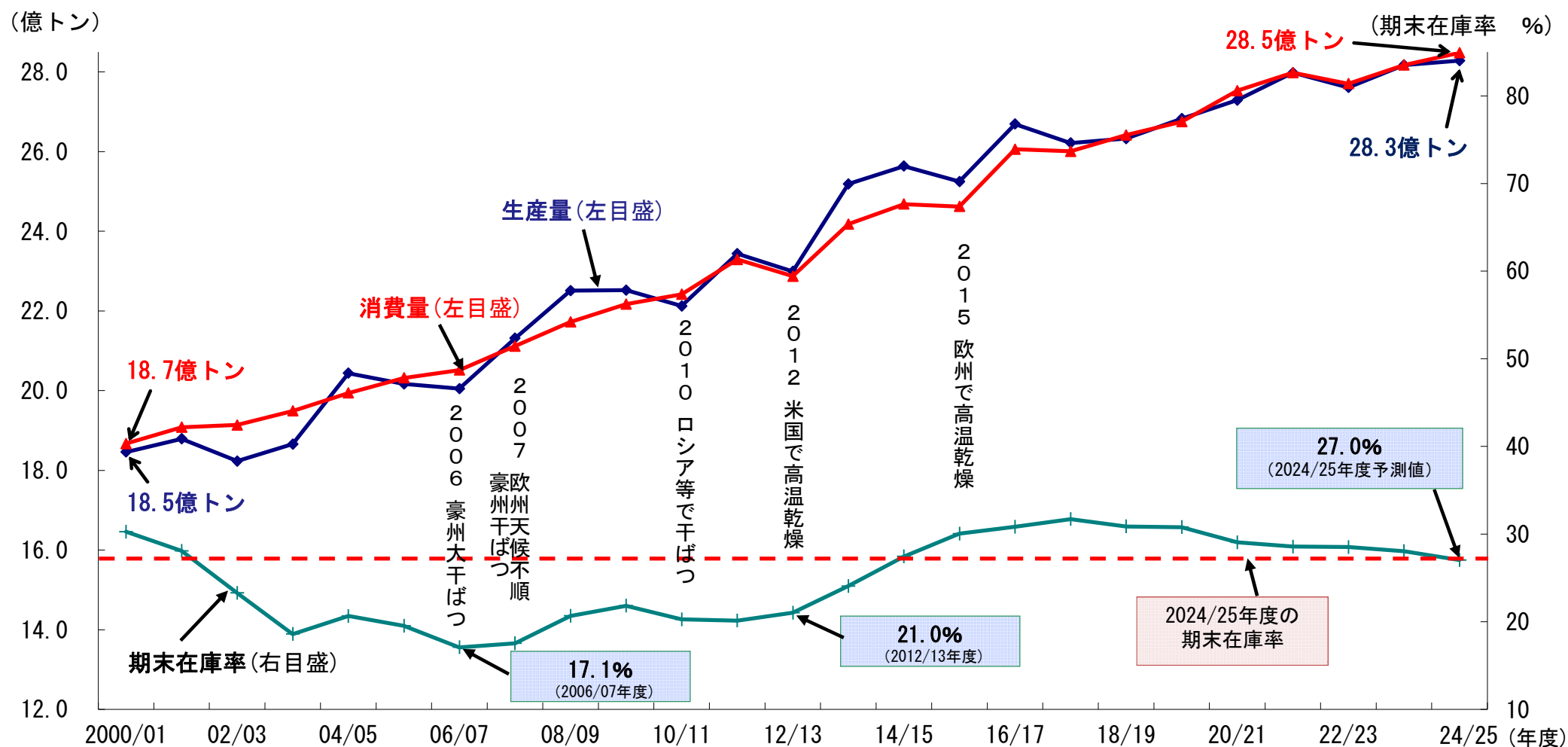
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。
なお、コメは10月30日の価格。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、27.0%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

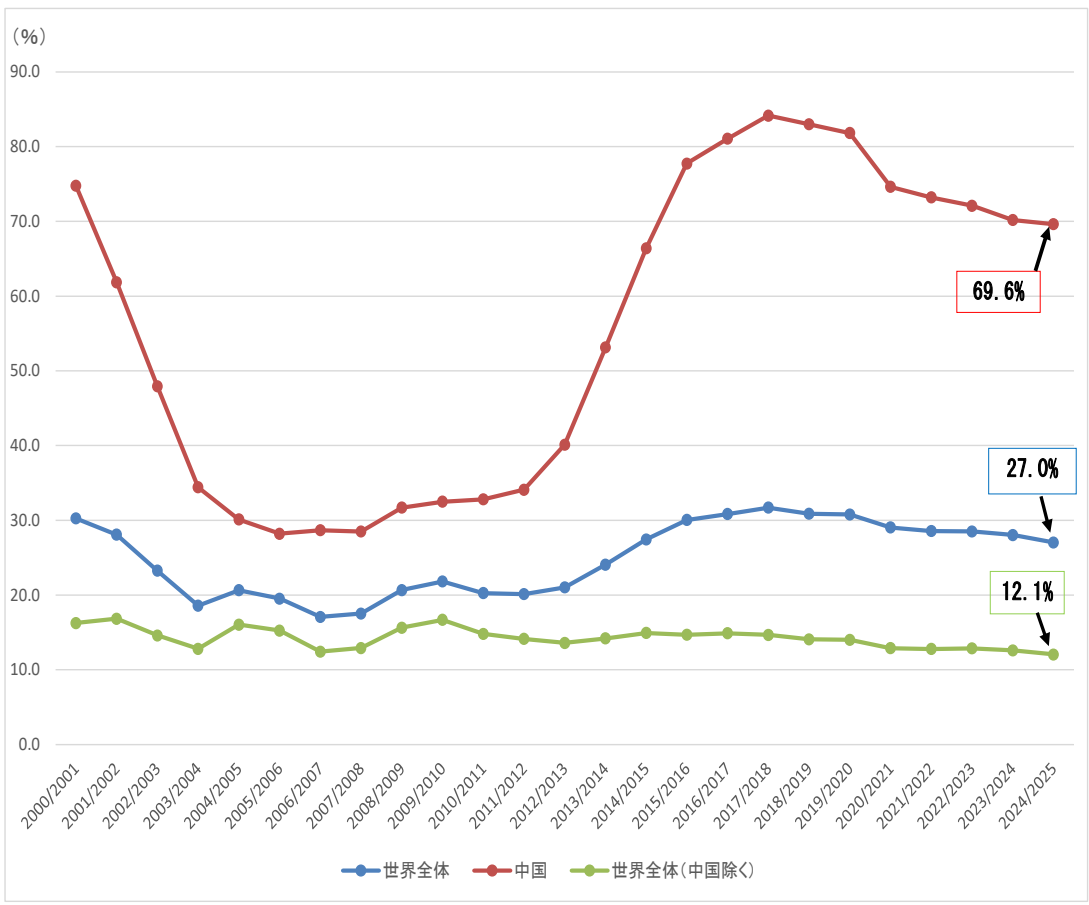


資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(November 2024)、「PS&D」

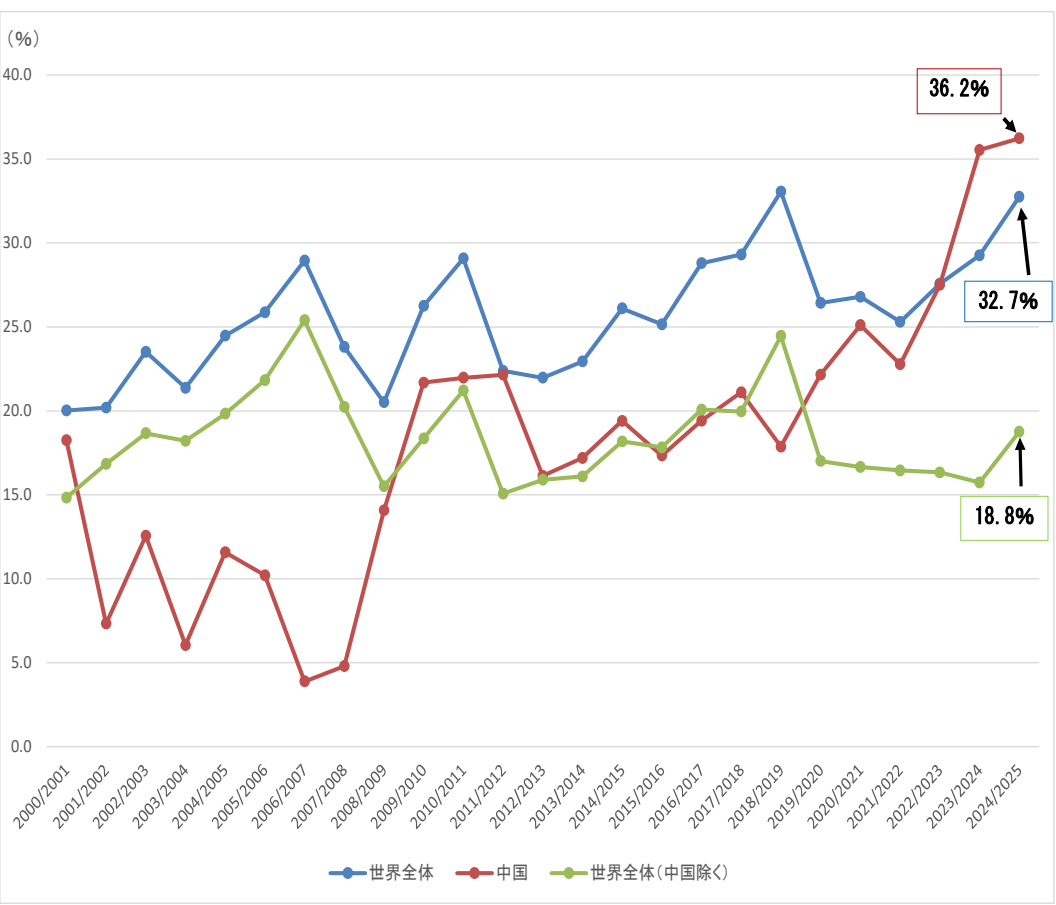
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



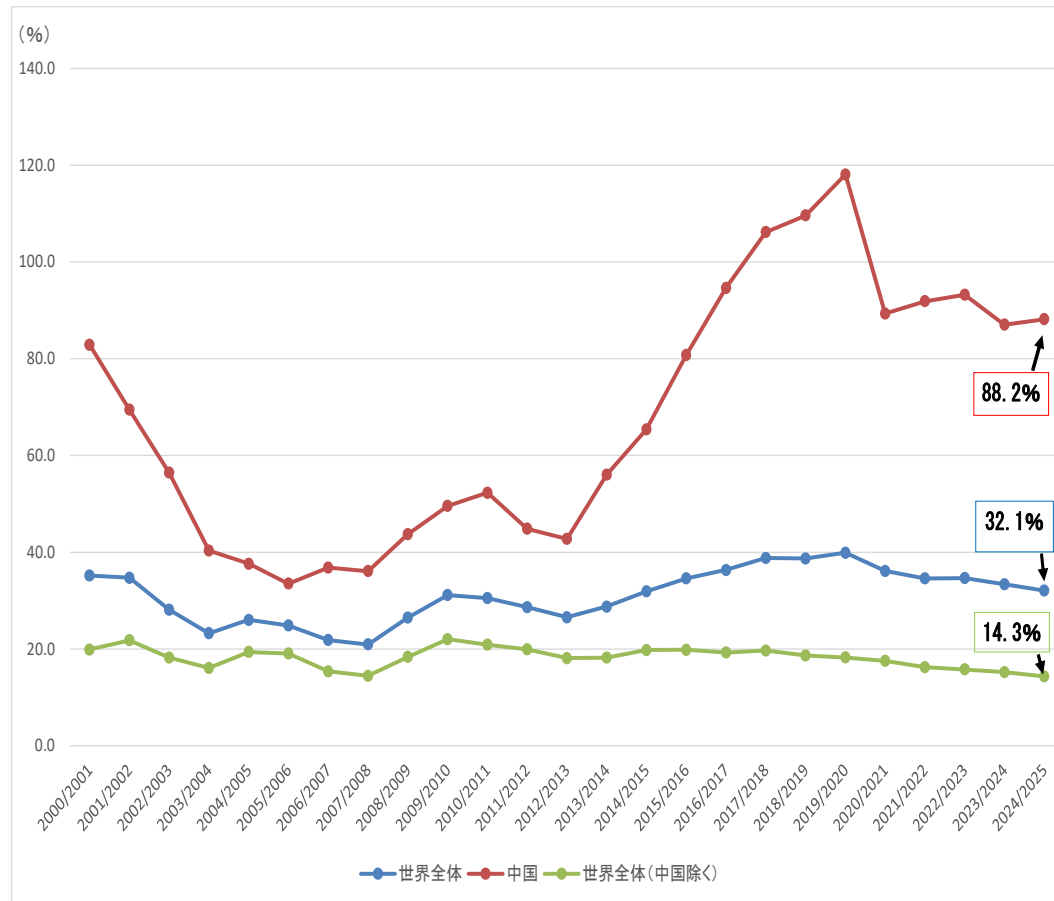
○ 大豆の期末在庫率の推移



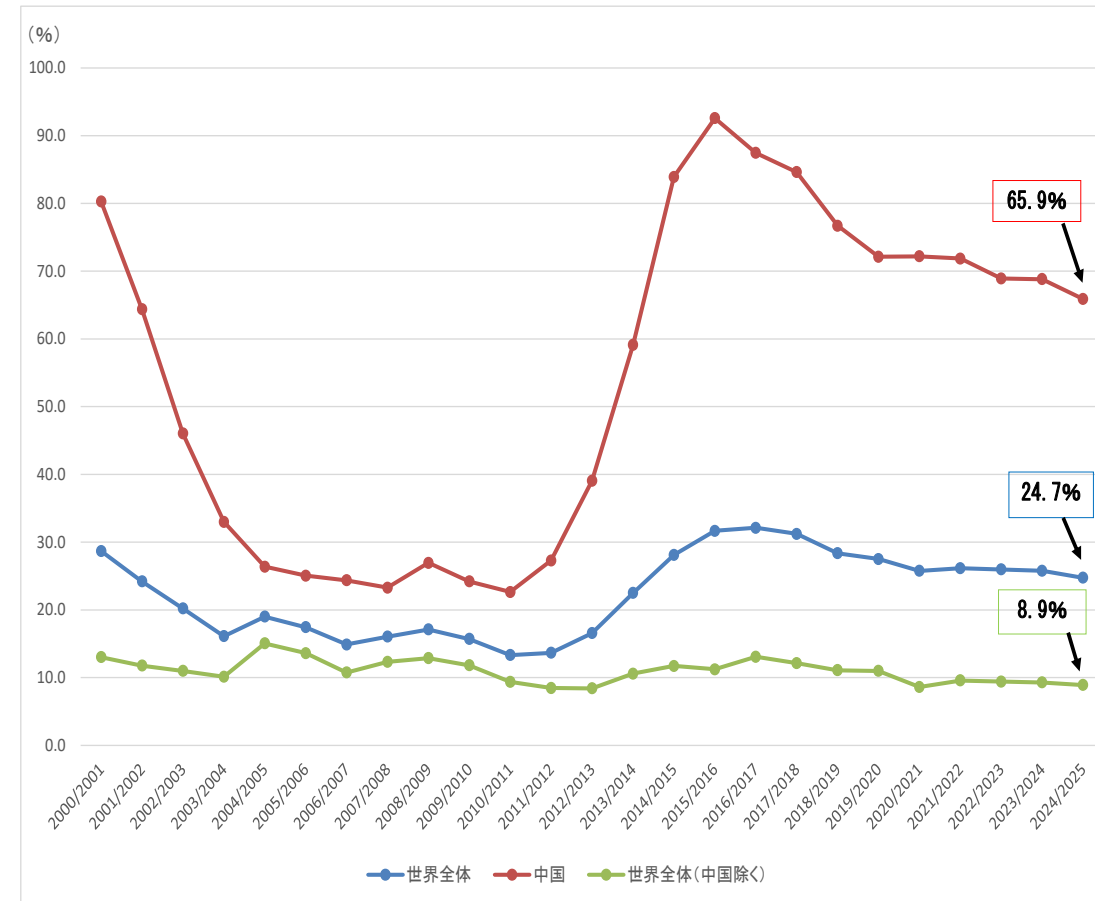
資料: 米国農務省「PS&D」(November 8, 2024)
 注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。
 2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100
 3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100
 4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(November 8, 2024)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

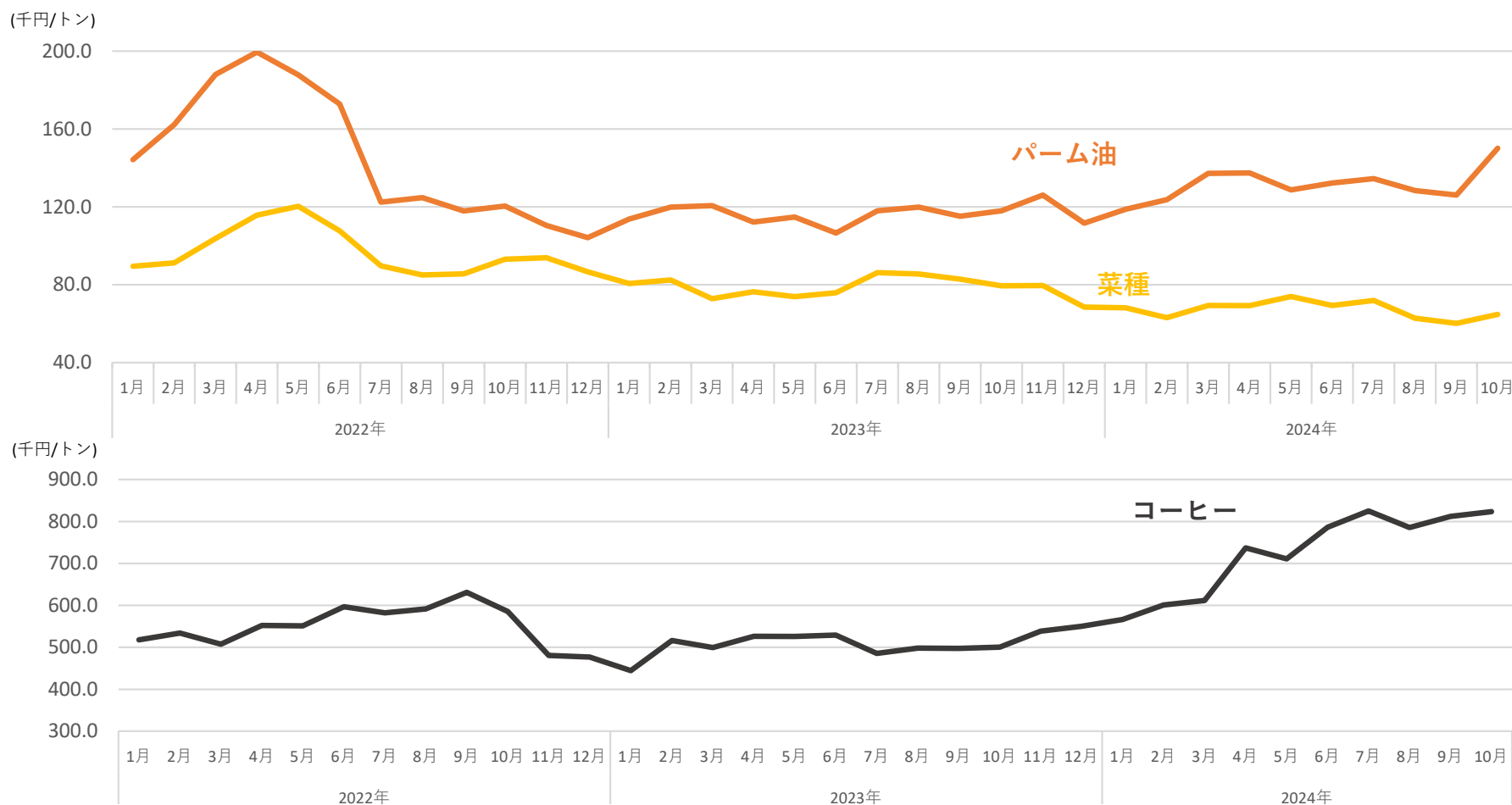
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料4-1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- パーム油の市場価格については、**2022年にインドネシアの輸出禁止措置により上昇したものの解除後（2022年5月）は下落し、安定していたが、インドネシアのバイオ燃料政策等の影響で2024年10月に上昇している。**
- 菜種の市場価格については、**2021年に主産地のカナダの不作により上昇したものの、2022年以降は収量の回復等により安定している。**
- コーヒーについて、**2021年以降、世界最大の生産国であるブラジルにおける天候不順による収穫量減少や世界的な物流の混乱等により、市場価格が上昇した。その後、消費地のインフレによる景況感の悪化やブラジルにおける収穫量の回復等により、市場価格は一時下降したが、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、2024年以降は再び市場価格が高騰している。**



2024年11月22日現在
□内は2022年1月以降
の最高値。

パーム油
150.1千円/トン

199.5千円/トン
(2022.4)

菜種
64.8千円/トン

120.3千円/トン
(2022.5)

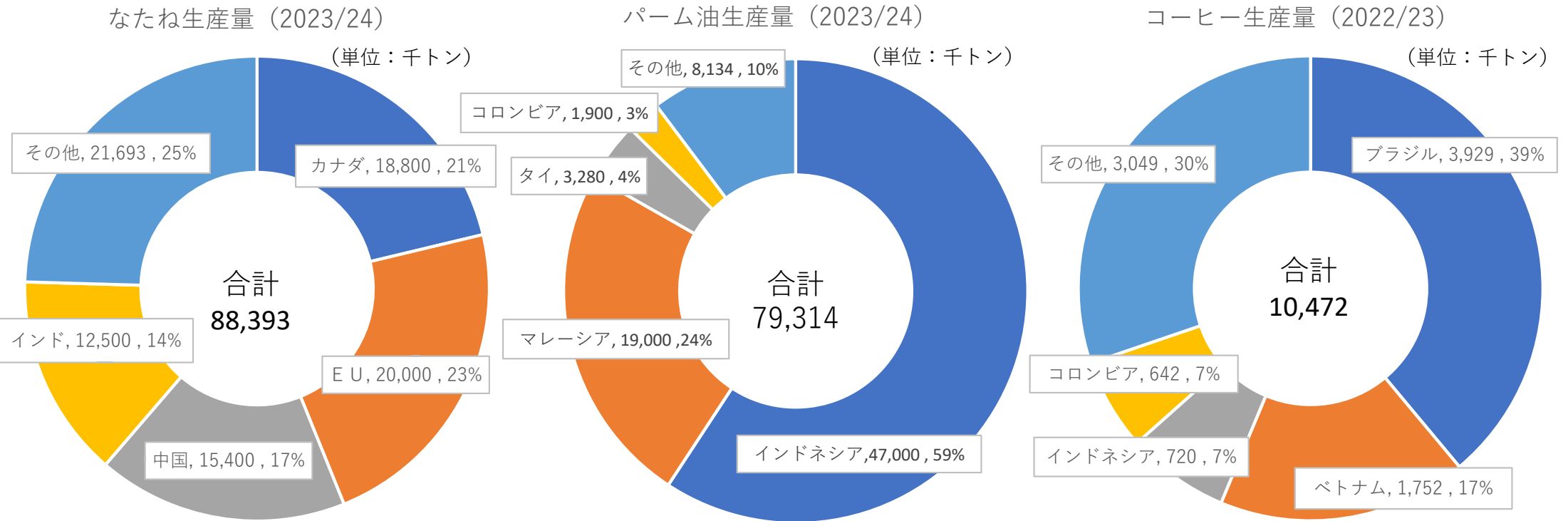
コーヒー
823.4千円/トン

825.0千円/トン
(2024.7)

※ 菜種の国際価格についてはカナダウィニペグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4－2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年 6 月時点

※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）
2024年 6 月時点

※国際コーヒー機関（ICO）統計資料
2024年 6 月時点

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2023年））

なたね	輸入量	割合	パーム油	輸入量	割合	コーヒー	輸入量	割合
カナダ	1,039	51.4%	マレーシア	574	85.6%	ブラジル	124	35.0%
オーストラリア	983	48.6%	インドネシア	96	14.4%	ベトナム	99	27.9%
その他	0	0.0%	その他	0	0.1%	コロンビア	34	9.6%
合計	2.022	100.0%	合計	671	100.0%	その他	98	27.6%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

資料 4－3 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね 単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	89.4	91.2	103.7	115.7	120.3	107.7	89.6	85.0	85.5	93.1	93.8	86.6	80.6	82.4	72.8	76.4	73.8	75.9	86.2	85.5	82.8	79.4	79.6	68.6	68.2	63.1	69.4	69.3	73.9	69.4	71.9	62.8	60.2	64.8		
前月比	100.6	102.0	113.8	111.5	104.0	89.5	83.3	94.8	100.6	108.9	100.8	92.3	93.1	102.2	88.3	105.0	96.7	102.7	113.6	99.2	96.9	95.9	100.2	86.1	99.5	92.5	109.9	99.9	106.6	93.8	103.7	87.3	126.1	107.7		
前年同月比	164.3	148.3	148.1	162.0	143.9	139.8	115.1	109.1	112.3	110.1	101.5	97.5	90.2	90.4	70.1	66.0	61.4	70.5	96.1	100.6	96.9	85.3	84.8	79.2	84.6	76.6	95.4	90.8	100.1	91.4	83.5	73.5	812.1	81.5		

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油 単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	144.2	162.2	188.0	199.5	187.8	172.8	122.4	124.7	117.9	120.4	110.4	104.2	113.7	119.9	120.6	112.1	114.7	106.5	117.9	119.8	115.1	118.0	126.1	111.6	118.7	123.7	137.2	137.4	128.7	132.2	134.4	128.3	126.1	150.1		
前月比	112.5	112.4	115.9	106.1	94.1	92.0	70.9	101.9	94.5	102.1	91.7	94.4	109.1	105.4	100.7	93.0	102.3	92.9	110.7	101.6	96.1	102.4	106.9	88.5	106.4	104.2	110.9	100.2	93.7	102.7	101.7	95.4	98.2	119.1		
前年同月比	155.0	157.5	166.6	184.4	151.2	177.3	110.5	103.7	98.1	85.9	77.0	81.3	78.8	73.9	64.2	56.2	61.1	61.7	96.3	96.1	97.7	98.0	114.2	107.1	104.4	103.2	113.7	122.6	112.2	124.1	114.0	107.1	109.5	127.3		

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料 4－4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③コーヒー

単位（千円/トン）

	2022年												2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コー ヒー	517.9	534.1	507.5	552.1	551.2	596.8	582.3	591.6	631.1	585.4	480.6	477.0	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1	485.5	498.1	497.4	500.3	538.5	550.2	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3	825.0	785.5	812.1	823.4		
前月 比	100.6	103.1	95.0	108.8	99.8	108.3	97.6	101.6	106.7	92.8	82.1	99.2	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6	91.8	102.6	99.9	100.6	107.6	102.2	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6	104.9	95.2	103.4	101.4		
前年 同月 比	194.1	190.6	172.9	188.0	169.5	172.9	158.3	152.4	151.4	128.4	98.8	92.7	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7	83.4	84.2	78.8	85.5	112.0	115.4	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6	169.9	157.7	163.3	164.6		

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出
2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和6年10月の国内の加工食品の消費者物価指数は115.3～152.7（前年同月比で-6.2%～7.6%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省）
（令和6年4月～令和6年10月）

	R2	R3	R4	R6						
品目	平均	平均	平均	5月	6月	7月	8月	9月	10月	上昇率 （前年 同月比）
食パン	100.0	99.2	110.3	121.7	122.0	122.4	122.6	122.3	121.6	-0.9%
即席めん	100.0	100.1	107.6	124.6	121.4	122.9	124.3	120.2	118.4	-5.8%
豆腐	100.0	101.3	105.3	117.9	117.9	118.1	117.9	118.8	119.3	1.8%
食用油 （キャノーラ油）	100.0	106.9	144.4	147.8	149.0	146.8	148.1	144.3	146.9	-6.2%
みそ	100.0	99.3	101.3	113.2	113.8	113.4	113.7	114.8	115.3	4.0%
マヨネーズ	100.0	105.6	125.6	153.4	152.3	152.7	151.8	153.3	152.7	-0.9%
チーズ	100.0	98.7	107.5	130.5	132.6	132.3	135.4	133.4	134.6	-0.5%
バター	100.0	99.9	99.2	120.5	120.0	119.6	120.1	120.0	120.1	7.6%
生鮮食品を 除く食料	100.0	100.2	104.1	115.7	115.9	116.3	117.1	117.8	119.2	3.8%

注1：令和2年の平均値を100とした指数で表記。
資料：総務省消費者物価指数

【参考】
食品価格動向調査（農林水産省）
（令和6年4月～令和6年11月）

	R2	R3	R4	R6								
品目	平均	平均	平均	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	100.0	98.6	107.8	117.8	118.9	118.2	118.6	118.9	118.2	117.4	-0.7%	0.3%
即席めん	100.0	99.2	105.6	119.8	114.9	121.0	120.4	119.1	115.5	118.5	2.6%	-3.0%
豆腐	100.0	100.6	103.7	116.7	115.0	115.9	115.9	116.7	118.5	119.3	0.7%	4.6%
食用油 (キャノーラ油)	100.0	104.1	140.7	145.1	144.1	142.9	145.1	143.5	144.5	142.9	-1.1%	-8.1%
みそ	100.0	99.2	100.1	108.1	109.2	110.0	109.8	110.2	110.0	110.6	0.5%	0.5%
マヨネーズ	100.0	102.2	117.7	138.6	141.3	140.3	140.6	141.3	140.6	138.6	-1.4%	-3.5%
チーズ	100.0	98.1	105.7	121.3	127.8	129.3	129.3	128.8	128.8	128.3	-0.4%	-1.8%
バター	100.0	99.8	99.1	119.4	119.7	119.7	119.7	118.8	119.4	119.7	0.3%	8.3%

注1：令和2年の平均値を100とした指数で表記。
注2：調査は原則、各都道府県10店舗で実施。
注3：調査結果は調査期間中の平均値で算出。

資料 6-1 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2024年12月号（11月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

◆牛肉

（米国）24年8月の牛肉輸出量は前年同月比8.5%減

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003496.html

（カナダ）牛飼養頭数は減少が続く、24年の牛肉輸出量は前年比4.0%増の見込み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003497.html

（EU）牛肉生産量は増加、枝肉価格も上昇基調

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003498.html

（豪州）24年10月の成牛と畜頭数、過去4年間で最大を記録

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003499.html

◆豚肉

（米国）24年8月の輸出量、ラテンアメリカ向けの増加により前年同月比6.2%増

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003500.html

（中国）豚肉価格は引き続き前年同月を上回る水準で推移

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003501.html

資料 6-2 海外の畜産物の需給動向（ALIC提供）

◆牛乳・乳製品

（EU）24年8月の生乳出荷量2カ月連続で前年同月を下回る

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003502.html

（豪州）生乳生産量は引き続き増加、主要乳製品4品目の輸出量も増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003503.html

（NZ）生乳生産量は好調、GDT平均価格は前回開催並み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003504.html

（アルゼンチン）24年1～9月の生乳生産量は前年同期比9.5%減、生乳価格は大幅上昇

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003505.html

※GDT価格…グローバルデイトリートレード価格

◆飼料穀物

（世界：トウモロコシ）生産量、期末在庫は引き続き微減も高水準の見通し

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003506.html

（世界：大豆）前月に続き大きな変化は見られず、大豆の期末在庫は大幅増の見込み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003507.html

（米国）単収の上方修正で生産量も増加、輸出量も高水準を維持

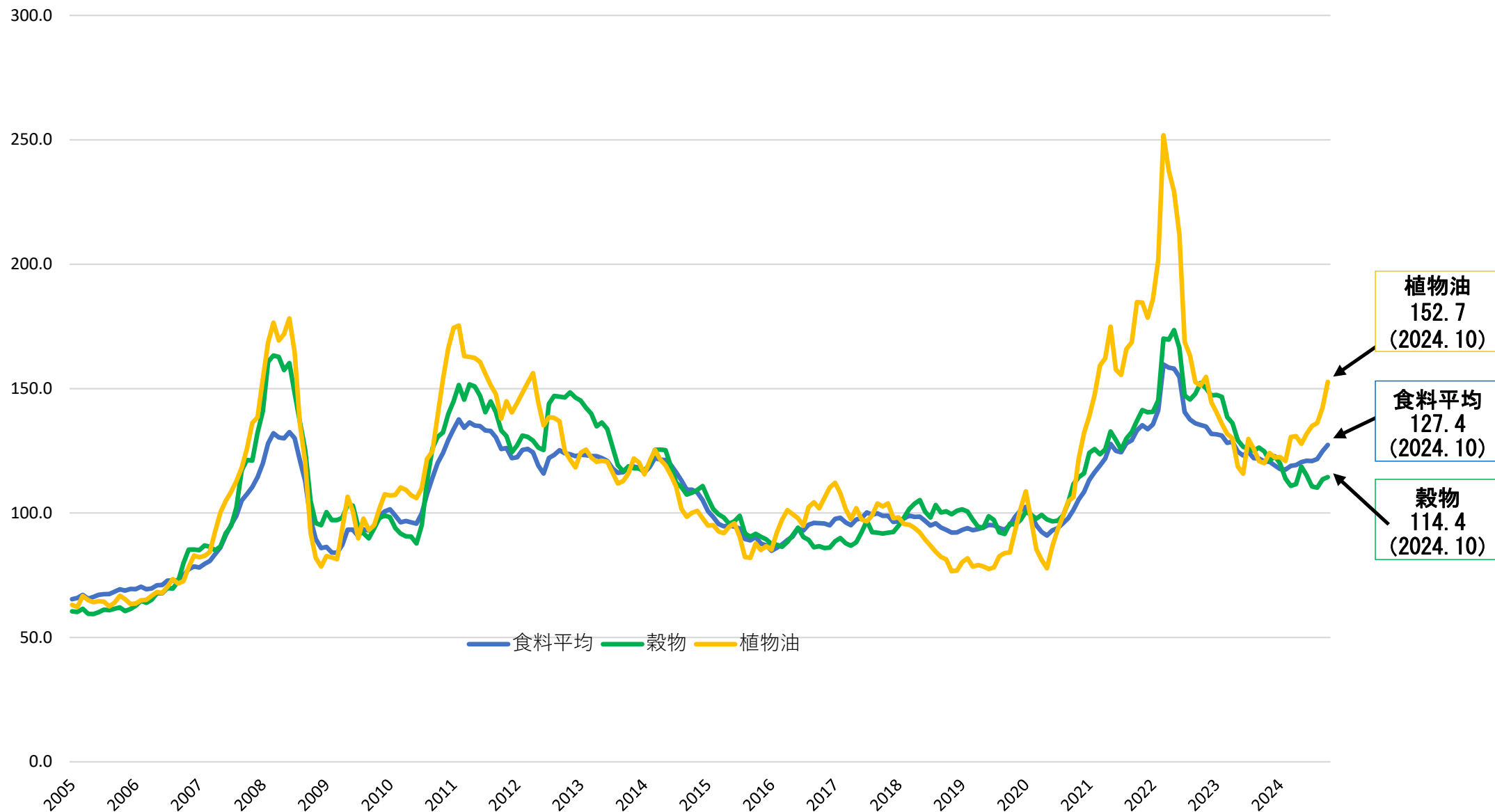
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003508.html

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003509.html

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2024.10)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

ペルーの食事情

「マチュピチュ遺跡」や「ナスカの地上絵」で有名なペルーは、近年、「食」に関しても世界から注目を集めています。例えば、旅行業界の賞である「World Travel Awards」では、「世界で最も美食を楽しめる国」としてペルーが表彰されているほか、世界の料理専門家によって選出される「The World's 50 Best Restaurants」でも、ペルーのレストランが数多く上位にランクインしています。

ペルーの食が評価されている理由はいくつかありますが、生産される食材が多様であることが一つの要因として挙げられます。ペルーの国土は南北にアンデス山脈が縦断し、同山脈西側に広がる海岸地帯、中央部の山岳地帯、東側の熱帯雨林地帯の3つの地帯に区分されます。海岸地帯は、基本的に砂漠であり、水はけの良さを利用した果実栽培や河川流域における米栽培が行われています。山岳地帯では、アンデス原産である、ジャガイモ、トウモロコシ、キヌアなどの伝統的な作物が中心に栽培されています。熱帯雨林地帯は、アマゾン熱帯雨林の一部であり、バナナやコーヒー等の熱帯作物の栽培地域となっています。その他、沖合では栄養塩を多く含むフンボルト海流により世界有数の漁場が形成されており、アンチョビやポタ（アメリカオオアカイカ）が漁獲されています。このように、全く異なる地形・気候区分が、バリエーションに富む食材をもたらし、ペルーの食を豊かにしています。



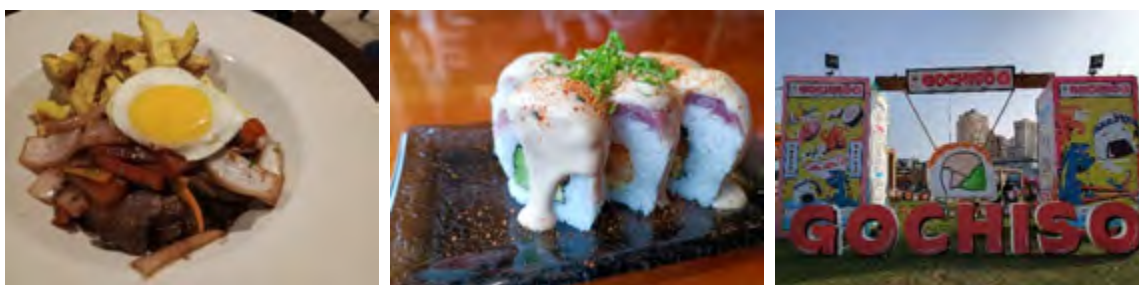
（写真）

首都リマにある市場内の青果店
と鮮魚店

さらに、ペルーが歩んできた歴史も食に影響を与えました。ペルーでは古くから灌漑技術が発達していたほか、山岳地帯の斜面を利用した階段耕作等の高度な農耕技術が存在しました。これらは、アンデス地方を中心に13世紀～15世紀にかけて栄えたインカ帝国の人々へ農作物の安定供給を可能としたと考えられています。インカ帝国の滅亡後、スペインによる植民地支配におかれたペルーでは、スペイン人だけでなく、労働を目的としてアフリカやアジアからも移民が流入します。インカの人々は、ジャガイモやトウモロコシ等の農作物を食事の基本としていましたが、移民やその子孫は、自らの国・地域の調理法・味を持ち込み、それらが先住民や他国移民の食文化と融合して、ペルー独自の料理を形成していきました。例えば、「クリオージョ料理」と呼ばれるジャンルのリマの郷土料理は、アフリカ系移民が支配層の家庭で台所仕事をする中で、スペインのレシピを自分好みに作りかえたところから発祥したと言われています。また、ペルー国内の至るところに「チーフア」と呼ばれるペルー料理と中華料理が融合した料理を提供するレストランが存在します。中華炒めのよう

な見た目で、細切りにした牛肉や野菜、フライドポテトを醤油ベースで炒めた「ロモ・サルタード」と呼ばれる料理は、代表的なペルー料理の一つですが、中国系移民の影響を受けて、現在の醤油を使うスタイルになったと言われています。

日本からの移民もペルーの食に革命を起こしました。南米大陸の国々の中で、ペルーは日本人が初めて移住した国であり、現在のペルー日系人の推定人口は、ブラジル、米国に次いで世界で3番目に多い約20万人となっています。日本からの移民やその子孫は、ペルーと日本の食材や調理法を組み合わせた「ニッケイ料理」と呼ばれる新たなジャンルを確立し、今や首都リマを中心にニッケイ料理レストランが立ち並んでいます。ニッケイ料理の中でも、ペルー料理で用いられるソースを巻き寿司にかけた「マキ・アセビチャード」や刺身の薄造りに発想を得て、生魚を薄切りにしてペルーのソースをかけた「ティラディート」が定番となっています。年に一度、日本食・ニッケイ料理のイベントである「ゴチソウ・ペルー」がリマで開催されており、大変な賑わいを見せています。



(写真左) ロモ・サルタード、(同中) マキ・アセビチャード、(同右) ゴチソウ・ペルーの様子

最後に、最も代表的なペルー料理である「セビーチェ」を紹介します。セビーチェとは、生または少し茹でた魚介類を紫タマネギ、レモン、唐辛子、ハーブ等で和えた料理です。セビーチェには、白身魚をはじめとして、エビ、イカ、タコ、ウニ、貝類等の魚介類が使用されます。ペルーの街中にはセビーチェをメインに取り扱う海鮮専門レストラン「セビチェリア」が多数あり、ペルーの人々で賑わっています。ペルーの国民食であるセビーチェは、「ペルーの伝統料理の一つであるセビーチェの調理と消費に関連した慣行と意義」としてユネスコの無形文化遺産に登録されています。これは、セビーチェが、海岸地帯のみならず、山岳地帯の湖や熱帯雨林地帯のアマゾン川に生息する淡水魚でも作られ、ペルー全土の食文化形成に大きく寄与した特別な料理であることに起因しています。



(写真左) 白身魚セビーチェ
(同右) 昼食時にセビチェリアに集う人々

日本にも本格的なペルー料理を楽しめるレストランがありますので、食材の宝庫であり、味付けや調理法も多彩なペルーの料理をぜひ味わってみてはいかがでしょうか。

文責：三島 康郎（在ペルー日本国大使館 二等書記官）

【出典】

細谷 広美（編集）. ペルーを知るための 66 章【第 2 版】. 明石書店, 2019 年第 2 版第 2 刷発行, p. 108.

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介しますものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ロシア、アルゼンチン、ブラジル等で下方修正されたものの、カザフスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

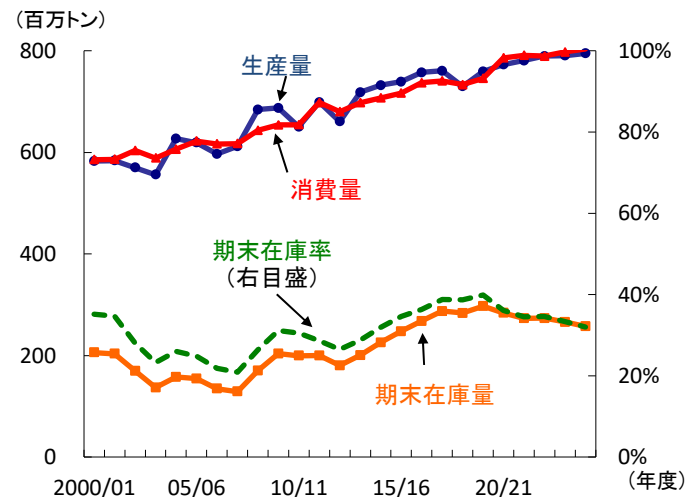
消費量 前年度比 前月比

- ・ロシア等で下方修正されたものの、カザフスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 前月比

- ・エジプトで上方修正されたものの、トルコ、カザフスタン等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



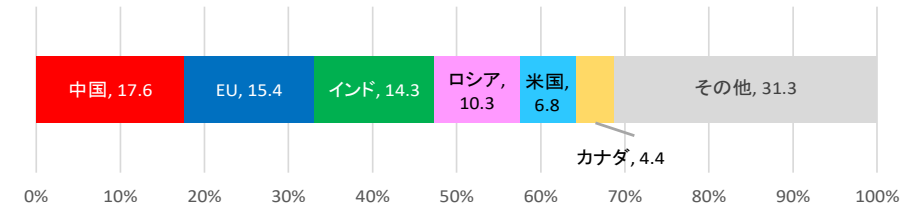
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

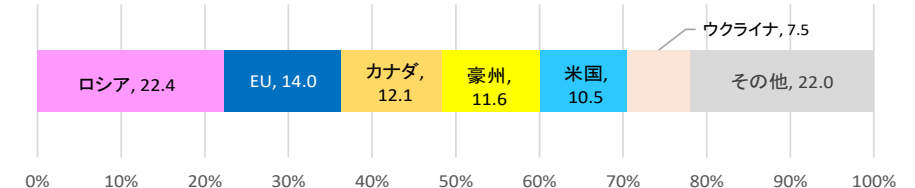
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	789.6	790.4	794.7	0.7	0.5
消 費 量	789.5	797.8	803.4	0.9	0.7
うち飼料用	152.7	158.6	152.9	1.1	▲ 3.6
輸 出 量	221.8	221.3	214.7	▲ 1.2	▲ 3.0
輸 入 量	213.3	221.8	210.0	▲ 0.8	▲ 5.3
期末在庫量	273.6	266.3	257.6	▲ 0.2	▲ 3.3
期末在庫率	34.7%	33.4%	32.1%	▲ 0.1	▲ 1.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (8 November 2024)

○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(794.7百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(214.7百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(210.0百万トン)(単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の輸出量は前年度に比べ 16.7%増加の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 53.7 百万トンと、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.3%増、過去 5 年平均（48.2 百万トン）と比べても 11.4%増となる見込み。品種別には、ハード・レッド・ウインター（HRW）が 21.0 百万トン（前年度比 29.3%増）、ハード・レッド・スプリング（HRS）が 13.7 百万トン（同 8.0%増）、ホワイト小麦（WW）が 7.5 百万トン（同 17.7%増）、デュラム小麦（Durum）が 2.2 百万トン（同 34.9%増）と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター（SRW）は前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等を受け 9.3 百万トン（同 23.7%減）となる見込み。

同「Crop Progress」（2024.11.12）によれば、11 月 10 日現在、2025/26 年度の冬小麦の作付進捗率は 91%と前年同期 92%、過去 5 年平均 93%を下回っており、出芽進捗率も 76%と前年同期及び過去 5 年平均 79%を下回っている。また、作柄は「やや良～良」の割合が 44%と、前年同期 47%を下回っており、作付初期の乾燥が影響したものと思われる。

同「Wheat Outlook」（2024.11.13）によれば、11 月 5 日現在、2025/26 年度の冬小麦の作付地域の約 57%が干ばつとなっている。干ばつの地域は前年同期 42%と比べ増加しており、干ばつによる生育への影響が懸念されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 22.5 百万トンと、増産による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア及びウクライナの減産による輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 16.7%増と 4 年ぶりの高水準となるものの、過去 5 年平均（23.0 百万トン）と比べれば 2.4%減となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～9 月の輸出量は、831.6 万トンと前年同期（613.4 万トン）と比べ 35.6%増となっており、国別にはメキシコ 130.9 万トン（15.7%）、フィリピン 98.8 万トン（11.9%）、韓国 82.6 万トン（9.9%）の順。

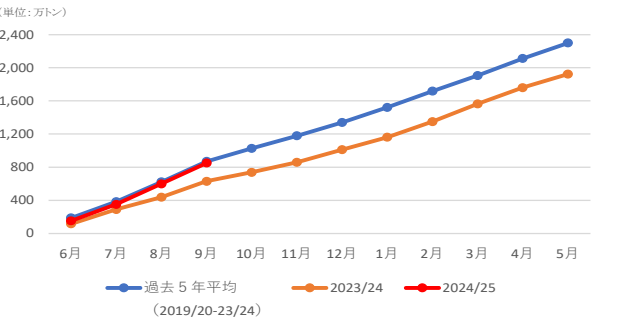
2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引上げ等を受け前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 22.2 百万トンと、前年度と比べ 17.0%増加し 4 年ぶりの高水準となる見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.1	53.7	-	9.3
消費量	30.3	30.2	31.2	0.05	3.6
うち飼料用	2.0	2.3	3.3	-	41.6
輸 出 量	20.7	19.2	22.5	-	16.7
輸 入 量	3.3	3.8	3.3	0.1	▲ 13.0
期末在庫量	15.5	19.0	22.2	0.1	17.0
期末在庫率	30.4%	38.4%	41.3%	0.1	2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.36	15.01	15.57	-	3.7
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.45	-	5.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(8 November 2024)

図 米国産小麦の輸出数量の推移（累計）



資料：USDA「Wheat Data」（2024.11.12）をもとに農林水産省で作成

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2024年6月～9月)				2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)				2022/23年度 (2022年6月～2023年5月)			
国 名	輸出量	シェア		国 名	輸出量	シェア		国 名	輸出量	シェア	
メキシコ	130.9	15.7		メキシコ	325.8	17.4		メキシコ	365.4	18.0	
フィリピン	98.8	11.9		フィリピン	274.5	14.7		フィリピン	206.1	10.2	
韓国	82.6	9.9		中国	216.9	11.6		日本	204.1	10.1	
日本	80.9	9.7		日本	197.1	10.5		韓国	147.2	7.3	
台湾	38.6	4.6		韓国	130.1	6.9		中国	120.6	6.0	
タイ	32.5	3.9		台湾	110.5	5.9		ナイジェリア	81.9	4.0	
その他	367.3	44.2		その他	618.1	33.0		その他	901.7	44.5	
計	831.6	100.0		計	1,873.0	100.0		計	2,027.0	100.0	

資料：USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省
で作成

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の輸出量は前月から上方修正され 25.7 百万トンの見込み（AAFC）

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2024.11.19）によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 34.3 百万トンと、干ばつの影響により減産となった前年度（32.9 百万トン）に比べ 4.1%増、過去 5 年平均（31.7 百万トン）と比べても 8.3%増となる見込み。種類別には、普通小麦は 28.3 百万トンと、前年度（28.9 百万トン）に比べ 2.1%減となるものの、過去 5 年平均（26.8 百万トン）と比べれば 5.6%増となる見込み。デュラム小麦は 6.0 百万トンと、前年度（4.1 百万トン）に比べ 47.6%増、過去 5 年平均（4.9 百万トン）と比べても 23.1%増となる見込み。

州別の生産状況は、普通小麦は、カナダ全体の生産量のうち、サスカチュワン州が約 40%、アルバータ州が 32%、マニトバ州が 17%を占めており、デュラム小麦は、サスカチュワン州が約 80%、アルバータ州が 19%を占めている。カナダ穀物委員会（CGC）によれば、10 月 24 日現在、収集したサンプルの検査により、ウエスタン・レッド・スプリング（普通小麦）の 94%、デュラム小麦の 73%が上位 2 等級に分類されている。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 25.7 百万トンと、前年度（25.3 百万トン）と比べ 1.4%増となる見込み。

種類別には、普通小麦が前月予測から 0.2 百万トン上方修正され 20.8 百万トンとなるものの、前年度（21.8 百万トン）に比べ 4.5%減となる見込み。デュラム小麦は前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 4.9 百万トンと、生産量の回復による輸出余力の増加等を受け、前年度（3.6 百万トン）に比べ 37.7%増となる見込み。

CGC によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～9 月の輸出量は、310.2 万トンと、前年同期（360.5 万トン）と比べ 14.0%減。種類別には、普通小麦が前年同期（327.0 万トン）比 16.5%減の 273.0 万トンで、国別にはインドネシア 36.0 万トン（13.2%）、日本 35.4 万トン（13.0%）、ペルー20.1 万トン（7.4%）の順。デュラム小麦は前年同期（33.6 万トン）比 10.6%増の 37.1 万トンで、国別にはモロッコ 14.3 万トン（38.4%）、米国 7.7 万トン（20.9%）、日本 3.6 万トン（9.6%）の順。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の引上げを受け前月予測から 0.3 百万トン下方修正され 4.6 百万トンとなり、前年度並みとなる見込み。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年8月～25年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	34.8	33.0	35.0 (34.3)	-	6.2
消 費 量	8.3	9.2	9.6 (8.7)	-	4.7
うち飼料用	3.2	4.1	4.5 (4.4)	-	10.6
輸 出 量	25.6	25.4	26.0 (25.7)	-	2.4
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	▲ 1.8
期末在庫量	5.6	4.6	4.5 (4.6)	-	▲ 1.1
期末在庫率	16.6%	13.3%	12.7% (13.4%)	-	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.10	10.70	10.60 (10.53)	-	▲ 0.9
単収(t/ha)	3.45	3.08	3.30 (3.26)	-	7.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(19 November 2024)

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

O普通小麦						(輸出量:万トン)	
2024/25年度 (2024年8月～9月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)	
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量 シェア
インドネシア	36.0	13.2%	中国	310.3	14.7%	中国	296.8 15.1%
日本	35.4	13.0%	インドネシア	251.9	11.9%	インドネシア	213.8 10.9%
ペルー	20.1	7.4%	日本	173.9	8.2%	日本	167.3 8.5%
コロンビア	17.5	6.4%	バングラデシュ	172.7	8.2%	ペルー	148.3 7.5%
エクアドル	16.0	5.8%	ペルー	137.3	6.5%	バングラデシュ	144.4 7.3%
その他	148.1	54.2%	その他	1,069.2	50.5%	その他	996.1 50.7%
計	273.0	100.0%	計	2,115.3	100.0%	計	1,966.6 100.0%

Oデュラム小麦						(輸出量:万トン)	
2024/25年度 (2024年8月～9月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)	
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量 シェア
モロッコ	14.3	38.4%	アルジェリア	89.3	26.0%	イタリア	121.0 23.8%
米国	7.7	20.9%	モロッコ	81.7	23.8%	アルジェリア	120.8 23.8%
日本	3.6	9.6%	米国	46.2	13.5%	モロッコ	85.7 16.9%
アラブ首長国連邦	3.6	9.6%	イタリア	44.7	13.0%	米国	50.4 9.9%
イタリア	2.8	7.4%	日本	21.2	6.2%	チュニジア	32.5 6.4%
その他	5.2	14.1%	その他	60.4	17.6%	その他	96.8 19.1%
計	37.1	100.0%	計	343.5	100.0%	計	507.3 100.0%

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2024/25 年度の小麦の収穫は順調に進展

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく 32.0 百万トンと、エルニーニョ現象により降雨不足で土壌水分不足だった前年度から収穫面積及び単収が増加することから、前年度と比べ 23.3%増、過去 5 年平均（29.8 百万トン）と比べても 7.3%増となる見込み。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）「Australian Crop Report」（2024.9.3）によれば、2024/25 年度の実産量は 31.8 百万トンと、前年度（26.0 百万トン）と比べ 22.6%増、過去 5 年平均（29.8 百万トン）と比べても 6.7%増となる見込み。

西豪州穀物産業協会（GIWA）「Crop Report」（2024.11.22）によれば、ウェスタンオーストラリア州の 2024/25 年度の実産量は、前月予測から 0.42 百万トン上方修正され 10.33 百万トンと、前年度（7.9 百万トン）と比べ 30.8%増となる見込み。一方で乾燥の影響で成熟が不十分となったことによる品質のばらつきがみられる。

報道によれば、9 月に入り豪州全体で乾燥した天候が続いたことや、ニューサウスウェールズ州、サウスオーストラリア州及びビクトリア州の広範囲に霜が降りたことから、生産量が下方修正の可能性はある。

現地情報会社の情報によれば、2024/25 年度の小麦の収穫進捗率は、10 月末現在は 1 %であったが、温暖で乾燥した気候により、11 月 5 日現在では 20%まで進展している。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 25.0 百万トンと、増産を受け前年度と比べ 25.0%増、過去 5 年平均（22.4 百万トン）と比べても 11.4%増となる見込み。ABARES（2024.9.3）によれば、2024/25 年度の輸出量は 21.8 百万トンと、前年度（19.8 百万トン）と比べ 10.0%増となるものの、過去 5 年平均（22.4 百万トン）と比べると 2.7%減となる見込み。

ABARES によれば、2023/24 年度（2023 年 10 月～2024 年 9 月）の輸出量は 1,970.1 万トンと、乾燥により生産量が減少したことから前年度（3,180.0 万トン）に比べ 38.0%減少している。国別には、中国 375.5 万トン（19.1%）、インドネシア 323.6 万トン（16.4%）、フィリピン 234.6 万トン（11.9%）の順となっており、前年度と同様に中国のシェアが高くなっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 2.8 百万トンと、輸出量の増加等を受け前年度に比べ 9.8%減となる見込み。

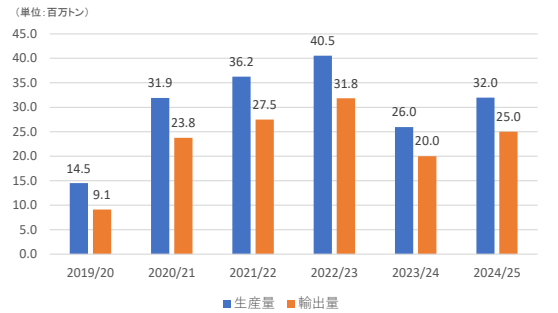
ABARES（2024.9.3）によれば、2024/25 年度の期末在庫量は 4.1 百万トンと、前年度（2.8 百万トン）に比べ 47.8%増となる見込み。

小麦－豪州（冬小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	40.6	26.0	32.0 (31.3)	-	23.3
消 費 量	8.0	7.5	7.5 (7.7)	-	-
うち飼料用	4.5	4.0	4.0 (4.0)	-	-
輸 出 量	31.8	20.0	25.0 (24.2)	-	25.0
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	▲ 9.1
期末在庫量	4.4	3.1	2.8 (2.7)	-	▲ 9.8
期末在庫率	11.0%	11.1%	8.5% (8.4%)	-	▲ 2.6

(参考)
収穫面積(百万ha) 13.05 12.37 13.00 (13.01) - 5.1
単収(t/ha) 3.11 2.10 2.46 (2.41) - 17.1
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
IGC 「Grain Market Report」(17 October 2024)

図 豪州の小麦の生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」（2024. 11. 8）をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2022/23年度 (2022年10月～2023年9月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	375.5	19.1	中国	759.2	23.9
インドネシア	323.6	16.4	インドネシア	502.9	15.8
フィリピン	234.6	11.9	フィリピン	307.6	9.7
イエメン	154.4	7.8	ベトナム	285.5	9.0
日本	120.6	6.1	韓国	270.0	8.5
韓国	119.4	6.1	タイ	199.2	6.3
その他	641.9	32.6	その他	855.7	26.9
計	1,970.1	100.0	計	3,180.0	100.0

資料：ABARES 「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 119.8 百万トンの見込み（EC）

【生育・生産状況】欧州委員会（EC）「EU Cereals Balance Sheets」（2024.10.31）によれば、2024/25 年度
の生産量は、フランス、ドイツ等で生産量が下方修正されたことを受け、前月予測から 1.9 百万トン下方修正
され 119.8 百万トンとなる見込み。2023 年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じ
た降雨過多等により収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度（132.6 百万トン）比 9.6%減、過去 5 年
平均（133.4 百万トン）と比べても 10.2%減。このうち、普通小麦は前月予測から 2.0 百万トン下方修正され
112.6 百万トンと、前年度比 10.0%減、過去 5 年平均比でも 10.5%減となる見込み。国別にはフランスが降雨
過多等を受け前年度比 27.6%減の 25.2 百万トン、ドイツも同 13.8%減の 18.2 百万トンとなる見込み。デュ
ラム小麦は前月予測からわずかに上方修正され 7.2 百万トンと、前年度比 2.9%減、過去 5 年平均比でも 4.4%
減となる見込み。国別にはスペインが干ばつからの回復により前年度比 61.9%増の 0.7 百万トンとなる一方、
イタリアが同 5.1%減の 3.5 百万トン、フランスも同 6.9%減の 1.2 百万トンとなる見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、単収の引下げを受け前月予測から 0.4 百万トン下方修正され
122.6 百万トンと、前年度と比べ 9.1%減、過去 5 年平均（134.6 百万トン）と比べても 8.9%減となる見込み。
同「Wheat Outlook」（2024.11.13）によれば、EU の生産量の下方修正は主にフランス、ドイツの実産量減少
によるもので、特にフランスでは過剰な降雨と日照不足により過去 40 年間で最少の実産量となり、製粉用小
麦の品質にも影響がある見込み。

【貿易情報・その他】EC によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の引下げ等を受け前月予測から 1.0 百
万トン下方修正され 25.7 百万トンと、減産を受け前年度（36.4 百万トン）比 29.3%減となる見込み。2024/25
年度のうち 2024 年 7 月～8 月の輸出量は、559.0 万トンと、前年同期（569.4 万トン）比 1.8%減。種類別
には、普通小麦が 547.9 万トンと、前年度比 2.8%減となる一方、デュラム小麦が 11.1 万トンと、同 92.1%増。

2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 10.0 百万トンと、ウクライナの減産で同国からの輸
入が減少すること等から前年度（12.1 百万トン）比 17.2%減となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年 7 月
～8 月の輸入量は、150.0 万トンと、前年同期（161.2 万トン）比 7.0%減。種類別には、普通小麦が 128.7 万
トンと、前年度比 10.6%増となる一方、デュラム小麦が 21.3 万トンと、同 52.6%減。

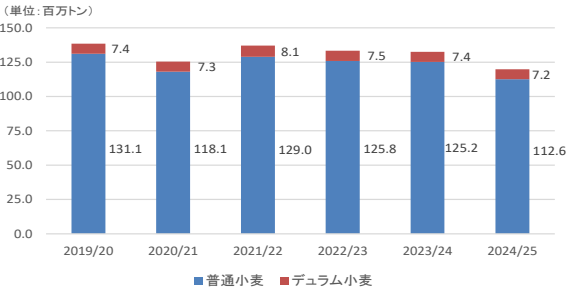
2024/25 年度の期末在庫量は、減産等を受け前月予測から 0.8 百万トン下方修正され 11.7 百万トンと、供給
量の減少から前年度（18.0 百万トン）と比べ 35.1%減となる見込み。

小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)			
			予測値、() はEC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	134.3	134.9	122.6 (119.8)	▲ 0.4	▲ 9.1	
消 費 量	109.0	111.0	108.8 (110.4)	-	▲ 2.0	
うち飼料用	45.0	46.5	44.5 (45.6)	-	▲ 4.3	
輸 出 量	35.1	37.9	30.0 (25.7)	-	▲ 20.8	
輸 入 量	12.2	12.6	11.5 (10.0)	-	▲ 8.9	
期末在庫量	16.0	14.7	10.1 (11.7)	▲ 0.3	▲ 31.5	
期末在庫率	11.1%	9.9%	7.3% (8.6%)	▲ 0.2	▲ 2.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.40	24.32	22.90 (22.46)	-	▲ 5.8	
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.35 (5.34)	▲ 0.02	▲ 3.6	
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(8 November 2024) EC 「EU Cereals Balance Sheets」(31 October 2024)						

図 EU27 の小麦生産量の推移



資料：EC「EU cereals production, area and yield」（2024.10.31）
をもとに農林水産省で作成

図 EU27 の小麦の輸出量及び輸入量

O輸出量					O輸入量				
国名	2024/25年度 (2024年7月～8月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		国名	2024/25年度 (2024年7月～8月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)
エジプト	76.4	13.7%	178.5	4.9%	ウクライナ	70.2	46.8%	647.4	53.6%
アルジェリア	60.0	10.7%	393.7	10.8%	カナダ	24.7	16.5%	138.5	11.5%
ナイジェリア	57.7	10.3%	348.9	9.6%	モルドバ	17.4	11.6%	73.6	6.1%
モロッコ	48.6	8.7%	489.1	13.5%	トルコ	11.0	7.3%	76.8	6.4%
英国	30.7	5.5%	140.0	3.9%	セルビア	8.6	5.8%	35.5	2.9%
サウジアラビア	24.0	4.3%	155.4	4.3%	英国	7.6	5.1%	51.7	4.3%
その他	261.6	46.8%	1,930.0	53.1%	その他	10.4	6.9%	185.2	15.3%
合計	559.0	100.0%	3,635.5	100.0%	合計	150.0	100.0%	1,208.7	100.0%

資料：EC「EU trade for cereals」（2024.10.31）をもとに農林水産
省で作成

< ロシア > 2024/25 年度の生産量は前月から下方修正され 81.5 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量（クリミア地域分を含まず）は、単収の引下げを受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 81.5 百万トンと、前年度と比べ 10.9%減、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べても 2.4%減となる見込み。種類別には、冬小麦が前月予測からの変更はなく 57.5 百万トンと、5 月の霜害とそれに続く高温乾燥により前年度（64.0 百万トン）に比べ 10.2%減。春小麦が単収の引下げを受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 24.0 百万トンと、霜害と高温乾燥により前年度（27.5 百万トン）に比べ 12.7%減となる見込み。

ロシア農業省によれば、11 月 8 日現在、2024/25 年度の実小麦（冬小麦及び春小麦）の収穫進捗率は 98%と前年同期 99%を下回り、8,398 万トンが収穫されている。また、冬小麦を含む 2025/26 年度の秋播き作物の作付けが始まっており、作付進捗率は 95%と前年同期 99%を下回っている。

現地情報会社の情報によれば、2025/26 年度の冬小麦は、作付け時の土壌水分量が少なかったことから、十分に生長しないまま越冬を迎える圃場が少なくないとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 48.0 百万トンと、史上最高となった前年度に比べ 13.5%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）に比べれば 13.2%増となる見込み。

現地情報会社によれば、10 月の輸出量は 573.8 万トンと、単月としては過去最高の輸出量となった。2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～10 月の輸出量は 2,026.8 万トンと、前年同期 1,989.4 万トンに比べ 1.9%増となっている。国別には、エジプト 410.0 万トン（20.2%）、トルコ 152.0 万トン（7.5%）、アルジェリア 148.5 万トン（7.3%）、バングラデシュ 117.1 万トン（5.8%）、ケニア 95.3 万トン（4.7%）の順。

一方、10 月 15 日、ロシア穀物同盟は小麦の輸出価格の参考価格を発表した。参考価格は適正な輸出価格の指標となるものであり、ロシア農業省と同盟が合意の上で決定され、今後も定期的に公表される予定。同盟の加盟企業は参考価格に従う義務はないものの、今後、輸出価格は上昇し輸出が鈍化する可能性がある。

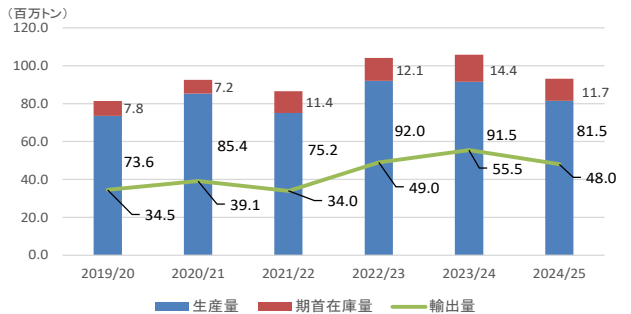
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 7.2 百万トンと、前年度に比べ 38.1%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			(単位: 百万トン)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	92.0	91.5	81.5 (81.8)	▲ 0.5	▲ 10.9
消費量	41.0	39.0	38.3 (39.0)	▲ 0.5	▲ 1.9
うち飼料用	18.0	16.0	15.5 (16.0)	▲ 0.5	▲ 3.1
輸出量	49.0	55.5	48.0 (43.7)	-	▲ 13.5
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-
期末在庫量	14.4	11.7	7.2 (10.0)	-	▲ 38.1
期末在庫率	16.0%	12.4%	8.4% (12.1%)	0.05	▲ 4.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.00 (27.73)	-	▲ 2.9
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.91 (2.95)	▲ 0.02	▲ 8.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
IGC 「Grain Market Report」(17 October 2024)

図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2024. 11. 8)をもとに農林水産省で作成

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2024年10月)			2024/25年度 (2024年7月～10月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
エジプト	134.0	23.4	エジプト	410.0	20.2	エジプト	868.3	16.0
アルジェリア	50.6	8.8	トルコ	152.0	7.5	トルコ	691.9	12.8
トルコ	47.5	8.3	アルジェリア	148.5	7.3	バングラデシュ	350.2	6.5
ケニア	32.1	5.6	バングラデシュ	117.1	5.8	アルジェリア	236.8	4.4
バングラデシュ	27.4	4.8	ケニア	95.3	4.7	サウジアラビア	224.8	4.2
イエメン	21.8	3.8	ナイジェリア	66.0	3.3	カザフスタン	222.2	4.1
ナイジェリア	21.7	3.8	イスラエル	61.5	3.0	パキスタン	213.0	3.9
その他	238.7	41.6	その他	976.4	48.2	その他	2,602.8	48.1
計	573.8	100.0	計	2,026.8	100.0	計	5,410.0	100.0

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2024/25 年度 7 月～10 月の輸出量は前年度に比べ 67.0%増加

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、前月予測からの変更はなく22.9百万トンと、3月以降、降水量が平年を下回り乾燥が続いた影響により前年度に比べ0.4%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても18.0%減となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、11月7日現在、2024/25年度の冬小麦及び春小麦の生産量は2,236万トンとなっており、収穫は完了している。また、11月11日現在、2025/26年度の冬小麦の作付進捗率は97%と、前年同期91%を上回っている。現地情報会社の10月末時点の情報によれば、冬小麦を含む秋播き作物の作柄は大部分が良好及び並み、一部で非常に良好となっているものの、中央部及び東部では、作付けの遅れと乾燥により例年よりも2～3週間生育が遅れている。なお、土壌水分量は一部州で不足しているものの、大部分の州では平年並み若しくは良好となっている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく16.0百万トンと、供給量の減少等により前年度と比べ13.9%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べても11.6%減となる見込み。

現地情報会社によれば、8月20日、ウクライナ政府は小麦等の適正な輸出を確保するため最低輸出価格の承認に関する決議を採択した。最低輸出価格は毎月10日までに承認・公表され、当該価格に対し最大10%の減まで（最低輸出価格の90%以上の価格は輸出可能）認められる。また、9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の付属書を締結し、2024/25年度の小麦の輸出上限は1,620万トンに設定された。

2024/25年度のうち2024年7月～10月の輸出量は774.0万トンと、前年同期（463.4万トン）に比べ67.0%増となり、2024/25年度の輸出上限1,620万トンに対し本年度4か月で47.8%を輸出している。国別にはスペイン184.4万トン（23.8%）、インドネシア131.2万トン（17.0%）、ベトナム70.0万トン（9.0%）の順で、前年度同様スペインが首位である一方、インドネシア、ベトナム、タイといったアジア諸国のシェアが増加している。

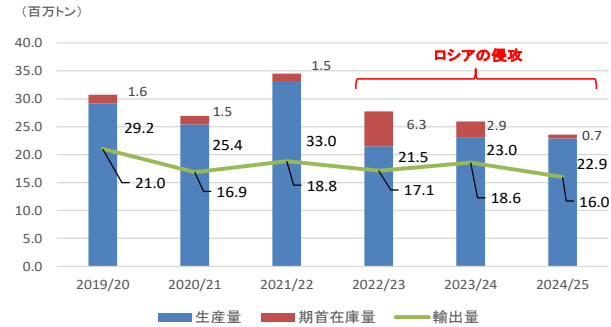
USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく1.0百万トンと、前年度に比べ39.4%増となるものの、史上3番目に低い水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			(単位:百万トン)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	21.5	23.0	22.9 (25.4)	-	▲ 0.4
消 費 量	7.8	6.7	6.7 (9.4)	-	-
うち飼料用	3.0	2.0	2.0 (1.4)	-	-
輸 出 量	17.1	18.6	16.0 (16.2)	-	▲ 13.9
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3
期末在庫量	2.9	0.7	1.0 (0.7)	-	39.4
期末在庫率	11.8%	2.8%	4.4% (2.6%)	-	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	5.20 (6.17)	-	3.8
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.40 (4.11)	-	▲ 4.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
IGC 「Grain Market Report」(17 October 2024)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」（2024.11.8）をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2024/25年度 (2024年10月)		2024/25年度 (2024年7月～10月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
国名	輸出量 シェア	国名	輸出量 シェア	国名	輸出量 シェア
スペイン	39.9 24.3	スペイン	184.4 23.8	スペイン	589.9 32.0
インドネシア	31.6 19.2	インドネシア	131.2 17.0	エジプト	172.1 9.4
エジプト	19.1 11.6	ベトナム	70.0 9.0	インドネシア	151.5 8.2
タイ	13.1 8.0	エジプト	65.9 8.5	トルコ	107.8 5.9
バングラデシュ	7.5 4.6	タイ	57.2 7.4	ルーマニア	100.1 5.4
ベトナム	6.1 3.7	アルジェリア	45.4 5.9	パキスタン	81.4 4.4
イエメン	5.4 3.3	イタリア	29.3 3.8	ベトナム	75.1 4.1
イタリア	5.3 3.2	イエメン	27.4 3.5	バングラデシュ	73.7 4.0
アルジェリア	5.3 3.2	バングラデシュ	24.2 3.1	イタリア	67.7 3.7
マレーシア	5.1 3.1	チュニジア	23.0 3.0	アルジェリア	63.3 3.4
その他	25.6 15.6	その他	116.0 15.0	その他	358.0 19.5
合計	164.2 100.0	合計	774.0 100.0	合計	1,840.6 100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の輸入量は前月から下方修正され 11.5 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 140.0 百万トンと、前年度と比べ 2.5%増、過去 5 年平均（135.8 百万トン）と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国国家统计局によれば、2024/25 年度の冬小麦の作付面積は 23.09 百万ヘクタールと、前年度に比べ 0.1%増（3.2 万ヘクタール増）となる見込み。単収は 5.99 トン/ヘクタールと、前年度と比べ 2.6%増。生産量は 138.2 百万トンと、前年度と比べ 2.7%増となる見込み。

中国国家気象センター「中国気象農業頻道」（2024.11.5）によれば、2025/26 年度の冬小麦の作付けが始まっている。大部分の地域では気温が平年並みか平年よりわずかに高いことから、生育は平年並みか早く、早いところでは分けつ期に入っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 151.0 百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24 年度に飼料用グレードの国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ 1.6%減となるものの、過去 5 年平均（146.1 百万トン）と比べれば 3.4%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、低調な輸入を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 11.5 百万トンと、史上最高の生産量に伴う国内需給の緩和から、前年度に比べ 15.7%減となる見込み。

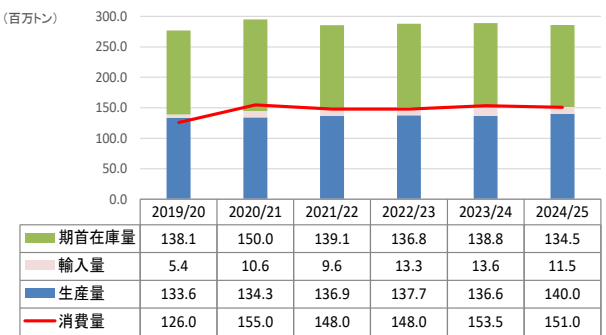
中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～9 月までの輸入量は 145.8 万トンと、増産を受け前年同期（216.2 万トン）に比べ 32.6%減となっている。国別には、カナダ 46.3 万トン（31.7%）、米国 45.1 万トン（30.9%）、豪州 18.6 万トン（12.8%）の順となっており、豪州が 2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の 60.0%から 12.8%と大きくシェアを減らしている一方で、米国及びロシアが大きくシェアを伸ばしている。

中国農業農村部「農産品供需形成分析月報 2024 年 9 月号」によれば、2024/25 年度の小麦は増産となり、余剰在庫が多くなっている。需要面では、小麦粉消費が増える時期に入っているものの、製粉企業の稼働率は前年同期に比べ低くなっており、また、新穀とうもろこしの市場価格が低いと予想されていることから、小麦の飼料消費も大幅に減少している。USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 134.0 百万トンと、前年度に比べ 0.4%減となる見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			予測値、() は IGC		前月予測からの変更	
					対前年度増減率(%)	
生産量	137.7	136.6	140.0	(140.0)	-	2.5
消費量	148.0	153.5	151.0	(146.8)	-	▲ 1.6
うち飼料用	33.0	37.0	33.0	(28.0)	-	▲ 10.8
輸 出 量	1.0	1.0	1.0	(1.2)	-	▲ 3.8
輸 入 量	13.3	13.6	11.5	(10.7)	▲ 0.5	▲ 15.7
期末在庫量	138.8	134.5	134.0	(142.9)	▲ 0.5	▲ 0.4
期末在庫率	93.2%	87.0%	88.2%	(96.6%)	▲ 0.3	1.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.52	23.63	23.70	(23.65)	-	0.3
単収(t/ha)	5.86	5.78	5.91	(5.92)	-	2.2
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(8 November 2024) IGC 「Grain Market Report」(17 October 2024)						

図 中国の小麦の供給量と消費量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024. 11. 8)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

国 名	2024/25年度 (2024年7月～9月)		2023/24年度 (2023年7月～9月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
カナダ	46.3	31.7	43.9	20.3	307.8	23.0
米国	45.1	30.9	8.2	3.8	181.8	13.6
豪州	18.6	12.8	129.7	60.0	503.5	37.7
カザフスタン	17.1	11.7	25.2	11.7	66.8	5.0
ロシア	17.1	11.7	8.1	3.8	43.0	3.2
日本	1.1	0.8	0.8	0.4	3.3	0.2
フランス	0.4	0.3	0.2	0.1	230.1	17.2
その他	0.1	0.1	0.2	0.1	0.6	0.0
計	145.8	100.0	216.2	100.0	1,336.7	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・米国、メキシコ等で下方修正されたものの、ウガンダ、マラウィ、ベラルーシ、モザンビーク等で上方修正され、前月から上方修正された。

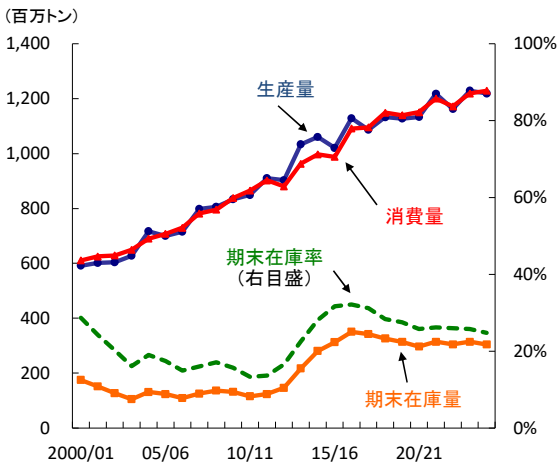
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウガンダ、ブラジル、メキシコ、ベトナム、マラウィ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ミャンマー等で上方修正されたものの、ブラジル、南アフリカで下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2024.11.8)をもとに農林水産省にて作成。

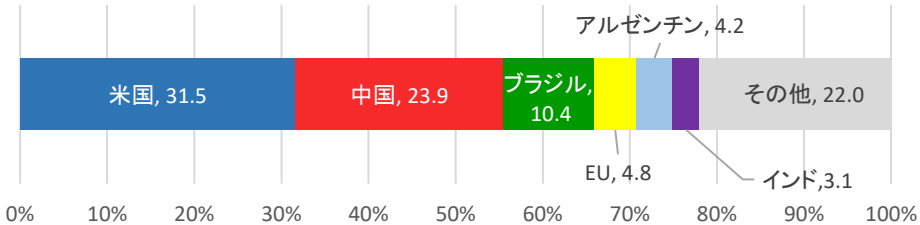
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

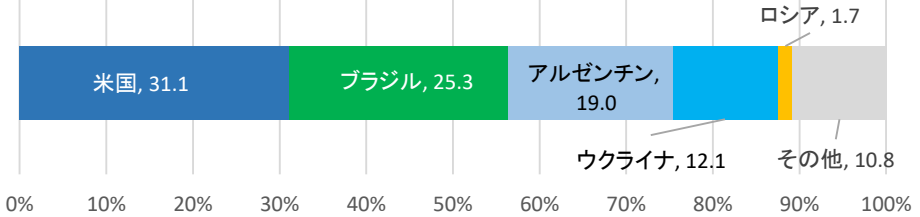
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,163.0	1,229.1	1,219.4	2.2	▲ 0.8
消費量	1,172.4	1,219.5	1,229.5	6.2	0.8
うち飼料用	735.1	771.2	776.5	2.2	0.7
輸出量	180.3	195.7	189.8	▲ 0.7	▲ 3.0
輸入量	173.4	196.2	183.4	▲ 0.4	▲ 6.5
期末在庫量	304.6	314.2	304.1	▲ 2.4	▲ 3.2
期末在庫率	26.0%	25.8%	24.7%	▲ 0.3	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 November 2024)

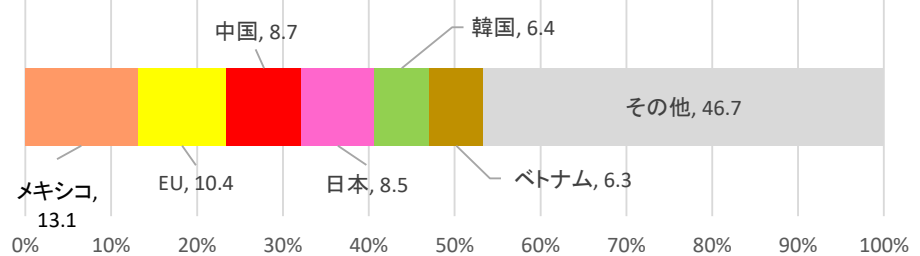
○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,219.4 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸出量(189.8 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度 世界のとうもろこしの輸入量(183.4 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 単収の引下げにより、生産量は前月から 1.5 百万トン下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、イリノイ州、アイオワ州、ネブラスカ州等での単収の引下げを受けて単収が前月予測から 0.05 トン/ヘクタール引下げられたため、前月予測から 1.5 百万トン下方修正され、収穫面積の減少（対前年度比 4.4%減）を受け、史上最高の前年度より 1.3%減の 384.6 百万トンとなったものの、史上 3 番目に高い見通し。収穫面積の減少は、作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作で価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたことによる。

USDA 「Crop Progress」（2024.11.12）によれば、11 月 10 日現在、主要生産 18 州における収穫進捗率は 95%と、前年同期（86%）、過去 5 年平均（84%）を上回り、収穫終盤を迎えている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、エタノール用等消費の減少を受けて、前年度に比べ 0.1%減の 321.7 百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より 1.4%増の 59.1 百万トンの見込み。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」（2024.11.8）によれば、米国産の輸出価格は、11 月 4 日現在、収穫進捗による豊富な供給量を受けて前月から 1 ドル/トン下落し、210 ドル/トンと、ブラジル産（219 ドル/トン）を下回り、アルゼンチン産（208 ドル/トン）とほぼ同水準で、価格競争力を有している。なお、2024 年 9～10 月の輸出量は 742 万トンと、2023/24 年度の豊作を受けて前年同期の 534 万トンより 39%増。主な輸出先は、メキシコ 371 万トン（世界シェア 49.9%）、コロンビア 122 万トン（同 16.4%）、日本 96 万トン（同 13.0%）の順。

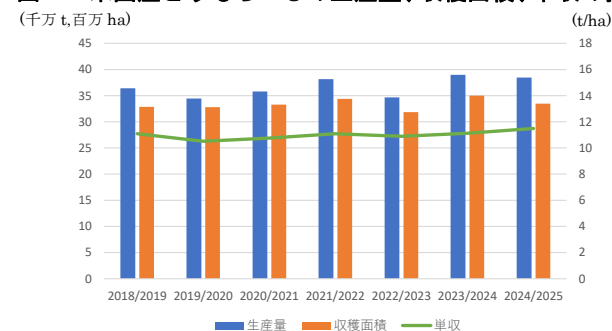
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引下げを受けて、前月予測から 1.5 百万トン下方修正されたものの、高水準の生産量となる見通しを受けて、前年度より 10.1%増の 49.2 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 1.2 ポイント上昇し 12.9%と、過去 5 年平均（10.7%）を上回っている。

とうもろこし－米国

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.7	389.7	384.6	▲ 1.5	▲ 1.3
消費量	305.9	322.0	321.7	-	▲ 0.1
うち飼料用	139.4	147.5	148.0	-	0.3
エタノール用等	131.5	139.1	138.4	-	▲ 0.5
輸 出 量	42.2	58.2	59.1	-	1.4
輸 入 量	1.0	0.7	0.6	-	▲ 11.1
期末在庫量	34.6	44.7	49.2	▲ 1.5	10.1
期末在庫率	9.9%	11.8%	12.9%	▲ 0.4	1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.47	-	▲ 4.4
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.49	▲ 0.05	3.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（8 November 2024）

図 1 米国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」（2024.11.8）をもとに農林水産省にて作成

図 2 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上 2 番目に高い生産量となる見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2024.11.14）によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 3.6%増の 119.8 百万トンの見込み。現在作付けが開始されている夏とうもろこし（ブラジルのクロップカレンダー（図 2）参照）は、生産コストの増加による大豆等の他作物への作付けのシフトによる作付面積の減少等を受けて、前年度比 0.7%減の 22.8 百万トンの見込み。一方、1 月以降に作付けが開始される冬とうもろこしは、単収の増加等を受け、前年度比 4.6%増の 97.0 百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2024.11.13）によれば、2024/25 年度の夏とうもろこしについて、11 月 4 日現在、南部のパラナ州の作付進捗率は 98%と、降雨を受けて前年同期（95%）を上回っている。一方、11 月 7 日現在、南部のリオ・グランデ・ド・スール州の作付進捗率は 78%と、乾燥が続いていることを受けて前年同期（79%）を下回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、生産施設への投資によるエタノールの増産見通しを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年並みの 83.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、消費量の引上げ及び直近の輸出データを受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 9.1%増の 48.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国となる見込み。

なお、2023/24 年度の実産量は、直近の貿易データに基づき前月予測から 2.0 百万トン下方修正され、史上最高の豊作となった 2022/23 年度より 19.0%減の 44.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～10 月の輸出量は 30.8 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年同期比 27%減。内訳は、エジプト 3.5 百万トン（世界シェア 11.4%）、ベトナム 3.3 百万トン（同 10.7%）、イラン 2.7 百万トン（同 8.8%）、韓国 2.7 百万トン（同 8.7%）、日本 2.4 百万トン（同 7.8%）、中国 2.1 百万トン（同 6.8%）の順。

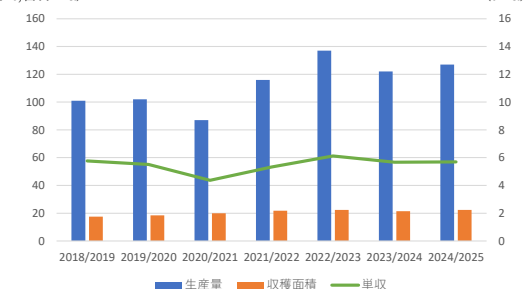
とうもろこしーブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約 8 割、夏とうもろこしは約 2 割）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（25年3月～26年2月）			
			予測値、() は CONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	137.0	122.0	127.0 (119.8)	-	4.1	
消 費 量	78.0	83.5	83.5 (87.0)	1.0	-	
うち飼料用	61.5	63.0	63.0	-	-	
輸 出 量	54.3	44.0	48.0 (34.0)	▲ 1.0	9.1	
輸 入 量	1.3	1.3	1.5 (1.9)	-	15.4	
期末在庫量	10.0	5.8	2.8 (5.1)	-	▲ 51.4	
期末在庫率	7.6%	4.6%	2.2% (4.2%)	-	▲ 2.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	22.40	21.50	22.30 (21.01)	-	3.7	
単収(t/ha)	6.12	5.67	5.70 (5.70)	-	0.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
CONAB「Graos」(14 November 2024)

図 1 ブラジル産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」（2024.11.8）をもとに農林水産省にて作成

図 2 ブラジルのクロップカレンダー（中部から南部）

2024/25 年度の夏とうもろこしの作付けは、2024 年 9 月以降、順次開始。
冬とうもろこしの作付けは、2025 年 1 月以降、大豆の収穫後に開始。

2024/25 年度	2024 年				2025 年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール 州等)	作付 3.8(百万ha)				収穫 22.8(百万t) → 収穫夏冬作計 119.8百万t								
冬とうもろこし (マツ・グロソソ州、 パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.0百万ha				作付 17.2(百万ha) → 収穫 97.0(百万t)								
大豆 (マツ・グロソソ州、 パラナ州等)	作付 47.4(百万ha)				収穫 166.1(百万t)								

大豆収穫後の一部面積で冬とうもろこし作付け

資料：CONAB「Graos」（2024.11.14）をもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.0%増、過去 5 年平均（49.7 百万トン）より 2.6%増の 51.0 百万トンの見込み。病虫害のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトすることが見込まれることから収穫面積が減少するものの、前年度に比べ単収が平年並み（凶作年を除く過去 10 年平均 7.94 トン/ヘクタール）に増加すると見込まれることによる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2024.11.13）によれば、11 月上旬、降雨があり、出芽に好影響を与えているとみられる。アルゼンチン政府によれば、11 月 7 日現在、作付進捗率は 34%と、前年同期（29%）より進んでいる。10 月に降雨がみられたものの、9 月の乾燥により表土が乾燥しており、作付けの進展には更なる降雨が必要とされる。

USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、干ばつにより減産した 2022/23 年度より 35.1%増の 50.0 百万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.9%増の 16.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて、前年度より 9.1%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～9 月の輸出量は 2,752.4 万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期（2,039.5 万トン）比で 35%増となった。内訳は、ベトナム 541.2 万トン（世界シェア 20.0%）、ペルー316.2 万トン（同 11.5%）、マレーシア 253.8 万トン（同 9.2%）の順。

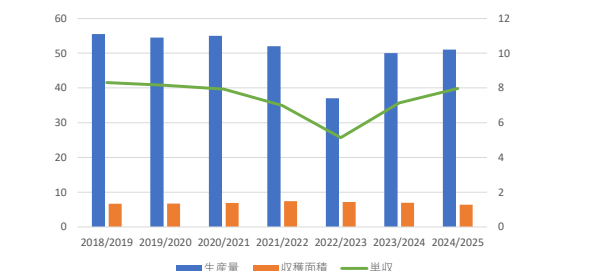
昨年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生し、同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを、現行の 1 ドル＝350 ペソから 1 ドル＝800 ペソに引き下げた。また、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。なお、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、これを継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	37.0	50.0	51.0 (54.0)	-	2.0
消 費 量	14.2	15.3	16.3 (20.5)	-	6.9
うち飼料用	10.0	11.0	12.0 (15.4)	-	9.1
輸 出 量	25.2	33.0	36.0 (35.0)	-	9.1
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0
期末在庫量	2.3	4.1	2.8 (1.6)	-	▲ 31.8
期末在庫率	5.9%	8.5%	5.3% (2.9%)	-	▲ 3.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.20	7.00	6.40 (7.50)	-	▲ 8.6
単収(t/ha)	5.14	7.14	7.97 (7.20)	-	▲ 11.6

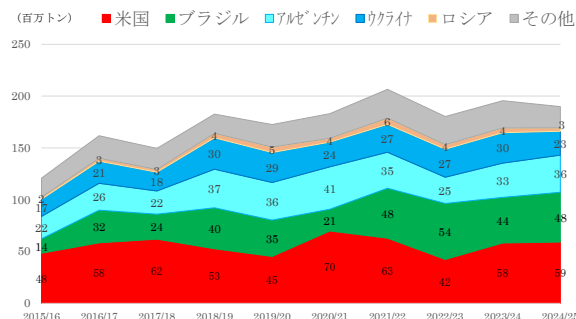
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
IGC 「Grain Market Report」(17 October 2024)

図1 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料：USDA 「PS&D」(2024.11.8) をもとに農林水産省にて作成

図2 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移
(アルゼンチンは世界第3位の輸出国)



資料：USDA 「PS&D」(2024.11.8) をもとに農林水産省にて作成

< ウクライナ > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 19.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 19.4%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 37.8%減の 26.2 百万トンとなる見込み。収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、7 月以降の高温乾燥の継続を受けて豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 17.4%減）することにより、減産となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、11 月 7 日現在、収穫進捗率は 83%と、前年同期（72%）より進んでいる。USDA によれば、11 月上旬、気温は平年並みからやや低く、乾燥が続いている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減を受けて前年度より 4.7%減の 4.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産を受け、前年度より 22.3%減の 23.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、臨時回廊による輸出が増加していることを受けて前年度より 9.2%増の 29.6 百万トンの見込み。

臨時回廊による輸出が本格化した 2023 年 10 月～2024 年 9 月の輸出量は 2,947 万トンと、前年同期比で 8.3%増。輸出先国は、スペイン 617.4 万トン（21.0%）、中国 461.9 万トン（15.7%）、エジプト 361.9 万トン（12.3%）の順。2023/24 年度に干ばつとなったスペイン向けが最大となっている。2024 年 10 月の輸出量は、191.7 万トンと、前年同月（111.9 万トン）より 71.3%増。

報道情報（2024.10.25）によれば、10 月上旬のロシアによる黒海での民間穀物輸送船攻撃以降、貨物保険料は約 3 倍となったものの、安価なウクライナ産農産物に需要があるため、臨時回廊による輸出は増加傾向にある。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減から前年度より 56.8%減、侵攻前の 5 か年平均より 75%減の 0.6 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 2.0 ポイント減の 2.3%と、2000/01 年度以降で最低の水準となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	27.0	32.5	26.2 (26.0)	-	▲ 19.4
消 費 量	4.9	4.3	4.1 (4.7)	-	▲ 4.7
うち飼料用	4.0	3.3	3.1 (3.3)	-	▲ 6.1
輸 出 量	27.1	29.6	23.0 (21.6)	-	▲ 22.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.8	1.5	0.6 (0.7)	-	▲ 56.8
期末在庫率	8.7%	4.3%	2.3% (2.6%)	-	▲ 2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10 (4.00)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.39 (6.50)	-	▲ 17.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
IGC「Grain Market Report」(17 October 2024)

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移
(2024/25 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見込み)

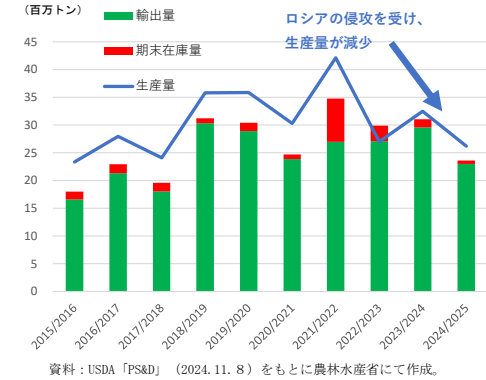


表 ウクライナ産とうもろこしの主な輸出先国

2024/25年度 (2024年10月)				2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)				2022/23年度 (2022年10月～2023年9月)			
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	国名	輸出量	シェア	国名
トルコ	46.7	24.4	スペイン	617.4	21.0	中国	563.3	20.7			
イタリア	42.6	22.2	中国	461.9	15.7	ルーマニア	392.7	14.4			
スペイン	35.1	18.3	エジプト	361.9	12.3	スペイン	291.6	10.7			
オランダ	27.0	14.1	オランダ	277.7	9.4	イタリア	236.7	8.7			
韓国	12.4	6.5	イタリア	253.0	8.6	エジプト	224.5	8.3			
その他	27.9	14.6	その他	975.1	33.1	その他	1,012.4	37.2			
合計	191.7	100.0	合計	2,947.0	100.0	合計	2,721.2	100.0			

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 1.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加見込みを受けて、前年度より 1.1%増の 292.0 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

全国秋収穫秋播種気象サービス（2024.10.25）によれば、10 月 24 日現在、とうもろこしの収穫進捗率は 87.7%。全国農業気象月報（2024.11.5）によれば、10 月は晴天が多く、とうもろこしの収穫に適していたとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局（2024.1.17）によれば、2023 年の食肉生産量は 9,641 万トンと、前年比で 4.5%増。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、ブラジル産の輸入減見込みを受けて前月予測から 3.0 百万トン下方修正され、国内のデフレ圧力により国内価格が低下し、輸入意欲が低下するとの見通しを受けて前年度より 31.7%減の 16.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～9 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 22.1%減の 1,288.5 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 599.1 万トン（46.5%）、ウクライナ 450.8 万トン（35.0%）、米国 205.4 万トン（15.9%）の順。

中国農業農村部「中国農業展望報告（2024－2033）」（2024.4）によれば、2023 年の国産とうもろこしの生産量は 2 億 8,884 万トンと前年から 4.8%増加したことから、2024 年のとうもろこし輸入量は 1,700 万トンと前年（2,713 万トン）から 37.3%減少すると予測。

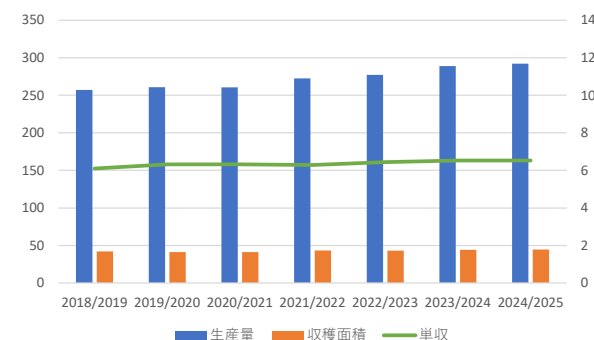
中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 9 月号」によると、9 月の国内価格は、2,340 元/トンと、新穀の供給を受けて前月（2,440 元/トン）から小幅に下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げを受けて前月予測から 3.1 百万トン下方修正され、前年度より 2.4%減の 206.3 百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

(単位：百万トン)						
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	277.2	288.8	292.0 (296.0)	-	1.1	
消 費 量	299.0	307.0	313.0 (315.2)	-	2.0	
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	18.7	23.4	16.0 (15.0)	▲ 3.0	▲ 31.7	
期末在庫量	206.0	211.3	206.3 (178.9)	▲ 3.1	▲ 2.4	
期末在庫率	68.9%	68.8%	65.9% (56.8%)	▲ 1.0	▲ 2.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.70 (44.90)	-	1.1	
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.53 (6.59)	-	-	
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(8 November 2024) IGC「Grain Market Report」(17 October 2024)						

図 中国産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」(2024.11.8)をもとに農林水産省にて作成

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

2024年 1月～9月			2023年 1月～12月			2022年 1月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	599.1	46.5	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	450.8	35.0	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	205.4	15.9	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	10.7	0.8	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
ブルガリア	7.6	0.6	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
南アフリカ共和国	5.6	0.4	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	9.3	0.8	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	1,288.5	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・バングラデシュ等で下方修正されたものの、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

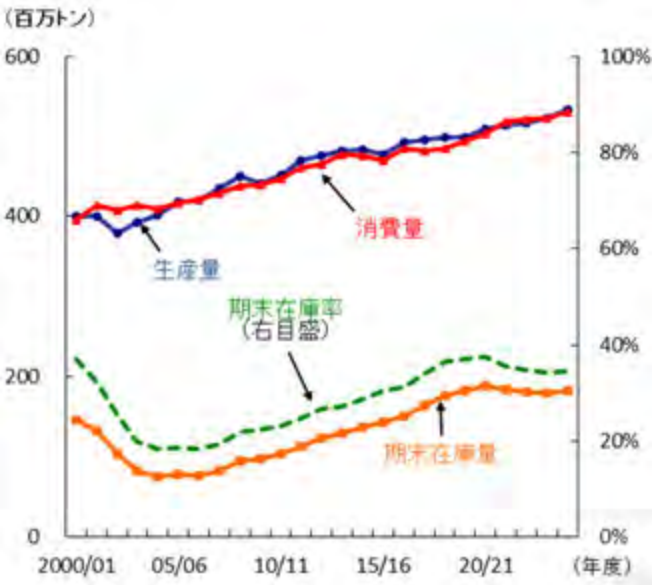
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・タイ等で下方修正されたものの、インド、ギニア、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・中国等で下方修正されたものの、インド、タイ、ベトナム等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2024. 11. 8）をもとに農林水産省にて作成

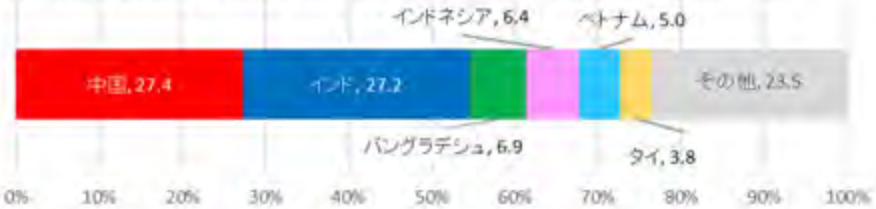
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

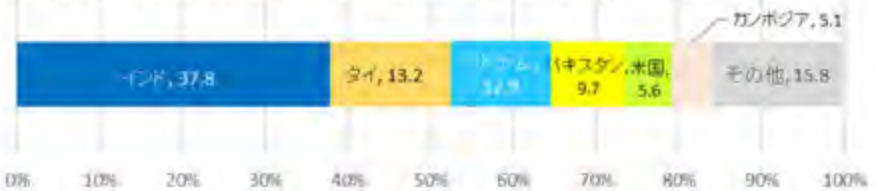
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	516.7	522.2	533.8	3.4	2.2
消 費 量	520.4	523.2	530.5	2.4	1.4
輸 出 量	54.8	54.9	56.9	0.5	3.8
輸 入 量	56.9	51.9	53.8	0.9	3.5
期末在庫量	180.3	179.3	182.7	0.5	1.9
期末在庫率	34.7%	34.3%	34.4%	▲ 0.1	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 November 2024)

○ 2024/25年度の世界のコメの生産量(533.8百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量(56.9百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量(53.8百万トン)(単位：%)



（２） 国別のコメの需給動向

< タイ > 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 19.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、20.1 百万トンと、前年度に比べ 0.5%増加する見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.11）によると、雨季米は収穫期を迎えており、総収穫面積は約 960 万ヘクタールで、昨年に比べ 0.01%減。先月の洪水による被害面積は約 142 千ヘクタールで、総作付面積の 1.4%に相当する。生産量及び単収は、各栽培段階での生育条件が良好で、農家の作物管理も徹底されていることから、わずかに増加している。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」（2024.10）によれば、2024/25 年度の雨季米（2024 年 5 月～10 月作付け）の生産量は、良好な天候から前年度に比べ 0.8%増加の 27.0 百万トン（粳ベース）の見込み。単収は増加した一方、作付面積は、前年度の 995 万ヘクタールから 994 万ヘクタールにわずかに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから作付面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付けのシフトも行われている。また 2023/24 年度の乾季米（2023 年 11 月～2024 年 4 月作付け）の作付面積は、灌漑用水の不足により、前年度比 9 %減の 155 万ヘクタールであった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、主にインドネシア政府調達をタイが獲得したことを踏まえ、前月予測から 0.2 百万トン上方修正されたものの、前年度からは 19.4%減少する見込み。これはインドの輸出規制撤廃等、インドネシア政府の調達が前年より減少したことによるものとみられる。

2023/24 年度（2024 年 1 月～12 月）の輸出量は、9 月までの販売ペースが予想を上回ったこと、11 月にインドネシア向けに 0.2 百万トンの販売が決まったことを踏まえ、前月予測から 0.4 百万トン上方修正され 9.3 百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024 年 1～9 月の輸出量は、前年同期比 22.0%増の 744.9 万トンとなった。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシア向けの輸出量は、前年同期の 90.5 万トンから 21.0%増加し、109.2 万トンと輸出先国の中で最大となった。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年 1 月～25年 12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	20.9	20.0	20.1 (20.1)	-	0.5	-
消 費 量	12.4	12.4	12.4 (12.4)	▲ 0.2	-	-
輸 出 量	8.7	9.3	7.5 (7.6)	0.2	▲ 19.4	-
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.0)	-	-	-
期末在庫量	4.0	2.4	2.7 (3.5)	▲ 0.2	12.8	-
期末在庫率	18.7%	10.8%	13.3% (17.6%)	▲ 1.0	2.5	-
(参考)						
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70 (10.70)	-	0.5	-
単収(粳t/ha)	2.86	2.85	2.85 (1.88)	-	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
IGC「Grain Market Report」(17 October 2024)（単収は粳t/ha）

写真 北部チェンライ県メーラオ郡の稲作
農家の圃場風景（2024 年 10 月 30 日撮影）



雨季米の生育状況。作付け後 71 日目。収穫時期が近くなり、生育は順調。

＜ 米国 ＞ 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 1.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、7.0 百万トンと、前年度に比べ 0.7%増加し、2020/21 年度以降最大となる見込み。

同「Rice Outlook」（2024.11.13）によれば、種類別の生産量は、長粒種が 7.6 百万トン（粳ベース）と前年度より 8 %増加するものの、中・短粒種は、収穫面積の減少を受け 2.4 百万トン（粳ベース）と前年度より 18%減少する見込み。

2024/25 年度の収穫作業は、南部の生産州及びカリフォルニア州全域で完了又はほぼ完了し、過去 5 年平均（86%）を上回っている。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2024.11.13）によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 4.2%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。

長粒種の輸入量は、前月予測からの変更はなく、引き続きタイ及びインドを中心としたアジア諸国からの香り米の輸入が継続する見込みを受け、前年度に比べ 4.5%増の 1.8 百万トンと史上最高の見込み。中・短粒種の輸入量は、前月予測から変更はなく、引き続き中国、タイ、インド、イタリアからの輸入が継続する見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」（2024.11.8）によれば、インドの非バスマティ米の輸出規制撤廃等を受け、アジアのコメ輸出価格は大幅な値下がりとともに、米国相場は、中南米向け長粒種の販売不振を受け、6 ドル安の 744 ドル/トンとなった。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.03 百万トン下方修正され、3.2 百万トンとなるものの、輸出余力の増加から、前年度に比べ 1.9%増加し、2016/17 年度以降で最高となる見込み。

同「Exports Sales Query System」（2024.10）によれば、2023/24 年度（2023 年 8 月～2024 年 7 月）の輸出量は 327.7 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 90.6 万トン（27.7%）、ハイチ 34.5 万トン（10.5%）、日本 29.6 万トン（9.0%）の順。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.03 百万トン上方修正され、前年度に比べ 18.4%増加し、1.5 百万トンの見込み。

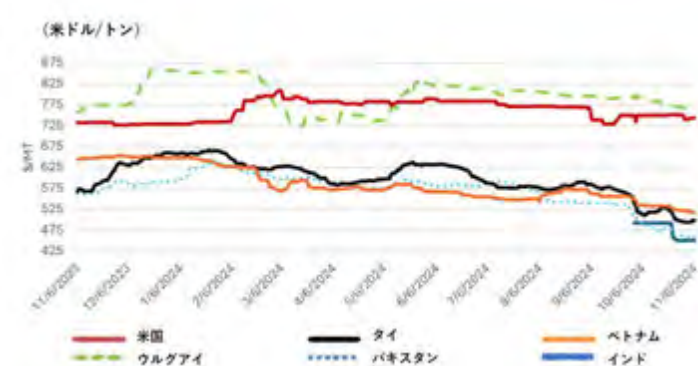
コメー米国

長粒種の生産量が 75%を占め、中・短粒種の生産量は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 8 月～25年 7 月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.1	6.9	7.0	-	0.7
消 費 量	4.6	4.9	5.1	-	2.2
輸 出 量	2.1	3.1	3.2	▲ 0.03	1.9
輸 入 量	1.3	1.4	1.5	-	4.2
期末在庫量	1.0	1.3	1.5	0.03	18.4
期末在庫率	14.4%	15.5%	18.0%	0.4	2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.17	-	0.9
単収(粳t/ha)	8.28	8.57	8.51	-	▲ 0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（8 November 2024）

図 長粒米の FOB 輸出価格相場：過去 12 ヶ月



資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.11.8）より

< 中国 > 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 38.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、146.0 百万トンと、収穫面積の増加（前年度比 0.2%増）及び史上最高の単収（前年度比 0.7%増）から、前年度に比べ 1.0%増の見込み。政府の最低支持価格の上昇を受け、収穫面積はわずかに増加する見込み。

全国農業気象月報（2024.11.5）によれば、10 月、主産地である東北地区（黒龍江省、吉林省、遼寧省）では、晴天が多く、収穫、乾燥に適していた。江南や華南地区（福建省、海南省、広東省）の大部分では、日照及び気温条件は良好。10 月末時点で、晩稲は乳熟期から成熟期に入り、生育進捗はおおむね平年並み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 0.4 百万トン上方修正され 145.7 百万トン。しかしながら、飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い食用需要が減少することから、前年度比で 1.6%減少する見込み。なお、消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2024/25 年度の輸入量は、世界のコメ価格の下落を受けベトナム、ミャンマー、パキスタン、タイ、カンボジアといった伝統的なインディカ米の供給国からの輸入が増加するとの予測から、前年度比 11.1%増の 1.7 百万トンの見込み。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 9 月号」によれば、9 月のコメ輸入量は、国際的なコメ価格の下落により、中国国内外の価格差が縮小したことを受け、8 月に比べ 14.6%増加。

中国海関統計によれば、2024 年 1～9 月の輸入量は 96.3 万トン（前年同期 45.3%減）。

USDA によれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出が継続すると予測されることから、2024/25 年度の輸出量は、前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、前年度比 38.7%減の 1.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく 104.0 百万トンと、前年度に比べ 1.0%増の見込み。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 7 月～25年 6 月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	146.0	144.6	146.0 (145.0)	-	1.0
消 費 量	155.0	148.1	145.7 (145.2)	0.4	▲ 1.6
輸 出 量	1.7	1.6	1.0 (1.6)	▲ 0.4	▲ 38.7
輸 入 量	4.4	1.5	1.7 (2.4)	-	11.1
期末在庫量	106.6	103.0	104.0 (102.0)	-	1.0
期末在庫率	68.0%	68.8%	70.9% (69.5%)	-	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.00 (29.00)	-	0.2
単収(粳t/ha)	7.08	7.14	7.19 (5.00)	-	0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)、
IGC「Grain Market Report」(17 October 2024)（単収は粳米t/ha）

図 中国の生産量、収穫面積、単収の推移
(2004/05～2024/25 年度)



資料：USDA「PS&D」(2024. 11. 8)をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 49.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、収穫面積の増加により、前月予測から 3.0 百万トン上方修正され 145.0 百万トンと、前年度比で 5.2%増加、過去 5 年平均（129.1 百万トン）と比べ 12.3%増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、主にインド東部におけるモンスーンの降水量が前年を上回り、カリフ米の収穫面積が予想を上回ったことから、前月予測から 1.0 百万ヘクタール増の 50.0 百万ヘクタールとなり、前年度に比べ 4.5%増加し史上最高となる見込み。

インド政府（2024.9.30）によると、綿花に比べて単収が高く、投入コストが低いコメに作付けがシフトしており、カリフ米の作付面積は前年度から 2.5%増加し 41.45 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 121.0 百万トン。旺盛な国内需要から前年度比 4.0%増となる見込み。

なお、国民の食料安全保障を確保するためにインド政府による公的食料配給制度が継続しており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、インド政府の輸出規制撤廃等を受け、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、前年度比 49.0%増の 21.5 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持し、世界全体のコメ輸出総量の約 37.8%を占める。

2023/ 24 年度の輸出量は、前月予測から下方修正され 14.4 百万トンと、前年度比 28.7%減。

インド輸出入統計によれば、2023 年 10 月から 2024 年 8 月までの輸出量は 13.6 百万トンで、主な輸出先国は、サウジアラビア 129.0 万トン（9.5%）、ベナン 115.9 万トン（8.5%）、イラク 84.3 万トン（6.2%）の順。サウジアラビア等の中東諸国向けはバスマティ米の輸出が主である。

インド政府は、2022 年 9 月 9 日以降、非バスマティ米を中心に、様々な輸出規制を発動・強化してきたが、国内における史上最高の増産予測及び農家・輸出者からの要請を受け、2024 年 9 月 14 日に、2023 年 8 月 27 日より導入したバスマティ米の最低輸出価格の撤廃を発表した。また、9 月 27 日には、粳米、玄米、パーボイルド米の輸出関税を 20%から 10%への引き下げを発表。更に、9 月 28 日には、昨年 7 月から禁止していた非バスマティ米の輸出禁止措置を撤廃し、最低輸出価格を導入したものの、10 月 23 日に撤廃を発表した。インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、10 月時点での期末在庫量は、31.06 百万トン（精米）と前年に比べ 40.0%増の見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)					
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年 9 月)		
			予 測 値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	135.8	137.8	145.0 (142.0)	3.0	5.2
消 費 量	114.5	116.4	121.0 (119.5)	1.0	4.0
輸 出 量	20.3	14.4	21.5 (20.8)	0.5	49.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	35.0	42.0	44.5 (43.4)	1.5	6.0
期末在庫率	26.0%	32.1%	31.2% (31.0%)	0.7	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	47.83	47.83	50.00 (48.50)	1.0	4.5
単収(粳t/ha)	4.26	4.32	4.35 (2.93)	-	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
IGC 「Grain Market Report」(17 October 2024) (単収は精米t/ha)

表 インドのコメ輸出規制(2024 年 10 月 23 日時

対象品目	措置内容
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出関税 (10%)
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出関税 (10%)
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	輸出関税: 12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t)
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出関税 (10%)
バスマティ米・パーボイルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出再開
砕米 (HS1006 40 00)	輸出禁止

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可
※有機米は本措置の対象外
資料: インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 2024/25 年度の輸出量は、前年度に比べ 17.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、26.5 百万トンと、前年度を 0.8%上回る見込み。2016/17 年度以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流通減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にある。2023/24 年度は、前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 26.3 百万トンと前年度に比べ 0.8 百万トン増加する見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.11）によると、紅河デルタ地域（北部）では、99 万ヘクタールのうち、76 万ヘクタールの夏秋作（雨季米）が収穫期を迎え、11 月中に夏秋作の収穫が完了する見込み。単収は、1 ヘクタール当たり約 5.36 トンと予想され、台風 11 号「ヤギ」の影響で、昨年に比べ 1.9%減少する見込み。メコンデルタ地域（南部）では、秋冬作（雨季米）が収穫段階にあり、総収穫面積は 0.49 万ヘクタールで、温暖な天候と灌漑整備の良さから、単収は、昨年より 3.3%増の 1 ヘクタール当たり約 5.8 トンと予想されている。その他の州では、冬春作（乾季米）の作付けが始まっている。

【貿易情報・その他】USDA「Grain: World Markets and Trade」（2024.11. 8）によれば、2024/25 年度の輸出量は、フィリピンとインドネシアへの販売増が見込まれることから、前月予測から 0.2 百万トン上方修正された。一方、世界第 1 位のコメ輸出国であるインドが非バスマティ米の輸出規制撤廃等をしたことにより、同国との競争激化が予想され、前年度に比べ 17.4%減少し、7.4 百万トンとなる見込み。

ベトナム税関総局によれば、2024 年 1～10 月の輸出量は 775.2 万トンと、前年同期（703.9 万トン）に比べ 10.1%増加。主な輸出先国は、フィリピン 363.8 万トン（46.9%）、インドネシア 108.7 万トン（14.0%）、マレーシア 67.5 万トン（8.7%）、ガーナ 52.3 万トン（6.7%）の順。

現地報道（2024.11.2）によれば、ベトナムはフィリピンへの輸出において継続的に首位を維持しており、10 月末時点で 291 万トンを輸出し、フィリピンのコメ輸入全体の 79%を占めているとのこと。このような増加傾向を踏まえ、フィリピンの 2024 年の輸入量は 400 万トンを超え、最大で 450 万トンに達する可能性があるとして予測されている。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

（単位：百万精米トン）					
年 度	2022/23	2023/24 （見込み）	2024/25（25年 1 月～25年12月）		
			予測値、（）は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）
生 産 量	27.1	26.3	26.5（28.6）	-	0.8
消 費 量	22.2	22.3	22.3（22.7）	0.2	0.4
輸 出 量	8.2	8.9	7.4（7.5）	0.2	▲ 17.4
輸 入 量	2.9	3.2	3.1（2.2）	0.2	▲ 3.1
期末在庫量	3.2	1.5	1.5（3.2）	▲ 0.3	▲ 4.6
期末在庫率	10.4%	4.9%	4.9%（10.5%）	▲ 0.9	0.0
（参考）					
収穫面積（百万ha）	7.12	6.90	6.95（7.12）	-	0.7
単収（粗t/ha）	6.10	6.10	6.10（4.02）	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（8 November 2024）
IGC「Grain Market Report」（17 October 2024）（単収は精米t/ha）

写真 南部カントー市トイライ県タンタイン村
稲作農家の圃場風景（2024 年 11 月 11 日撮影）



湛水が行われ、冬春作の作付準備
が進んでいる。

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・メキシコで上方修正されたものの、米国、インド、ベネズエラで下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

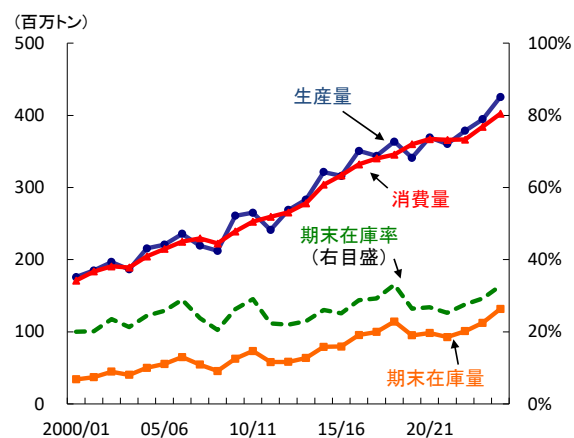
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・パキスタン等で上方修正されたものの、米国、インド等で下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出货量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国等で下方修正されたものの、ブラジル、カナダ等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2024.11.8)をもとに農林水産省で作成

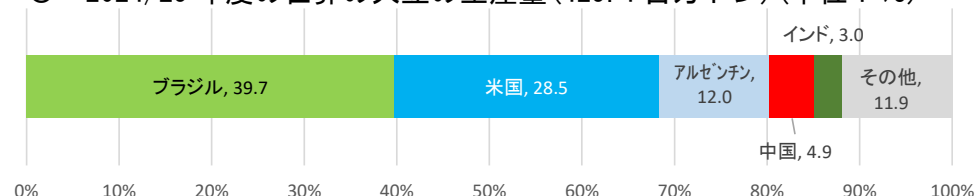
◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

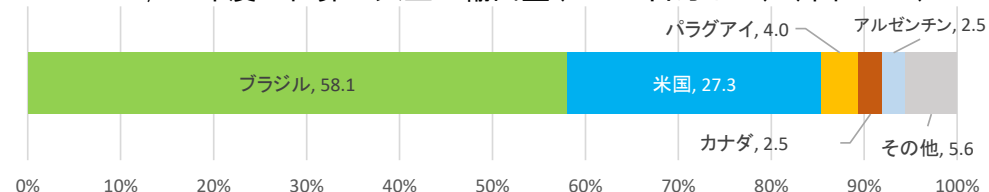
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	378.6	394.7	425.4	▲ 3.5	7.8
消費量	366.4	384.2	402.3	▲ 0.4	4.7
うち搾油用	315.3	331.1	346.2	▲ 0.2	4.5
輸出货量	171.8	177.0	181.7	0.2	2.6
輸入量	167.9	177.9	177.9	0.3	0.01
期末在庫量	101.0	112.4	131.7	▲ 2.9	17.2
期末在庫率	27.6%	29.3%	32.7%	▲ 0.69	3.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(8 November 2024)

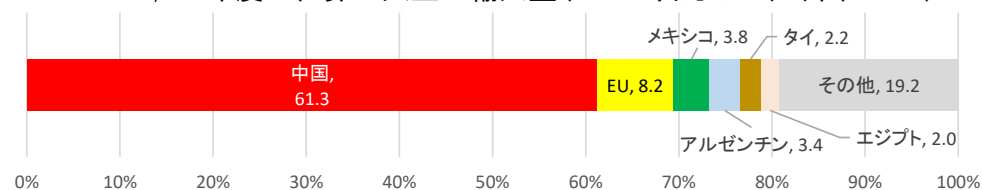
○ 2024/25 年度の世界の大豆の生産量 (425.4 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸出货量 (181.7 百万トン) (単位：%)



○ 2024/25 年度の世界の大豆の輸入量 (177.9 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は前年度から 7.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、単収の引下げを受け、前月予測から 3.3 百万トン下方修正されたものの、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 7.2%増の 121.4 百万トンと史上最高の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。

USDA「Crop Progress」（2024.11.12）によれば、11 月 10 日現在、収穫進捗率は 96%と、前年同期（94%）、過去 5 年平均（91%）を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、搾油用の消費量が引下げられたことを受けて前月予測から 0.4 百万トン下方修正されたものの、バイオ燃料等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.7%増の 68.7 百万トンで史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、生産量の引下げ及び直近の輸出データを受けて前月予測から 0.7 百万トン下方修正されたものの、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 7.7%増の 49.7 百万トンの見込み。

「OIL WORLD Monthly」（2024.10.18）によれば、2024/25 年度、パーム油等の油糧種子の減産による価格上昇に伴い、相対的に安価な大豆の需要が高まっている。

USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」（2024.11.8）によれば、米国大豆価格は、11 月 4 日現在、新穀の収穫進展を受けて前月から 10 ドル/トン下落し 414 ドル/トンと、新穀の収穫前で供給量が減少するブラジル産（431 ドル/トン）及びアルゼンチン産（416 ドル/トン）を下回っている。なお、USDA によれば、2024 年 9～10 月の輸出量は 1,280 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 1,189 万トンより 8%増。内訳は中国 726 万トン（56.7%）、メキシコ 99 万トン（7.7%）、ドイツ 70 万トン（5.4%）の順となっている。

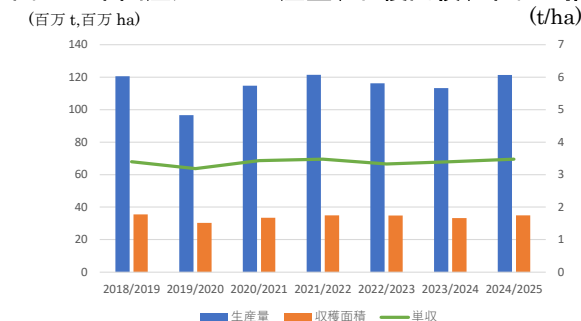
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引下げを受けて前月予測から 2.2 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 37.5%増の 12.8 百万トンとなる見込み。期末在庫率は 10.8%と、過去 5 年平均（8.0%）を上回り、2019/20 年度以来 5 年ぶりに 10%台まで回復する見通し。

大豆－米国

(単位:百万トン)					
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	116.2	113.3	121.4	▲ 3.3	7.2
消 費 量	63.3	65.6	68.7	▲ 0.4	4.7
うち搾油用	60.2	62.2	65.6	▲ 0.4	5.4
輸 出 量	53.9	46.1	49.7	▲ 0.7	7.7
輸 入 量	0.7	0.6	0.4	-	▲ 28.1
期末在庫量	7.2	9.3	12.8	▲ 2.2	37.5
期末在庫率	6.1%	8.3%	10.8%	▲ 1.7	2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.29	34.91	-	4.9
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.48	▲ 0.09	2.4

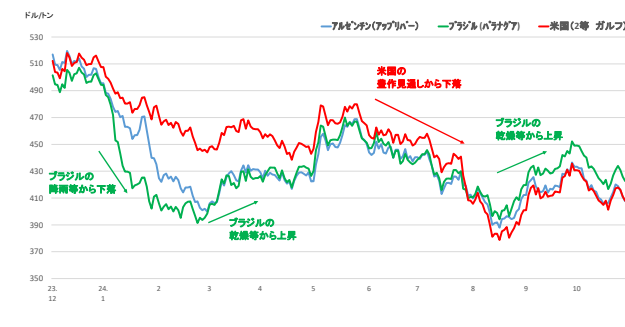
資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)

図 1 米国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推



資料: USDA「PS&D」(2024.11.8)をもとに農林水産省にて作成

図 2 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。

CONAB の月例報告（2024.11.14）によれば、2024/25 年度の実産量は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトすること等による作付面積の増加を受けて前年度より 12.5%増の 166.1 百万トンの見通し。11 月 3 日時点の作付進捗率は 53.3%と、10 月の降雨を受けて作付作業が進展し、前年同期の 48.4%を上回っている。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2024.11.13) によれば、11 月上旬、降雨があり、大豆の生育に好影響を与えているとみられる。11 月 1 日現在、主要生産州のマット・グロッソ州において、作付進捗率は 94%と、前年同期（92%）、過去 5 年平均（92%）を上回っている。

USDA 「World Agricultural Production」(2024.11.8) によれば、9 月までの数カ月にわたり高温乾燥が続き土壌水分量が著しく不足したため、農家は作付作業を開始することができなかったものの、10 月上旬に十分な降雨に恵まれ、作付作業を急速に加速させた。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度から搾油用需要が減少することを受けて前年度より 0.8%減の 58.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、世界的な需要増と米国の輸出量の引下げを受けて前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、中国からの引き続き堅調な需要等により、前年度から 1.3%増の 105.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～10 月の輸出量は 94.2 百万トンで、前年同期（92.8 百万トン）に比べ 1.5%増となっており、中国向け輸出が堅調に推移していることが要因。輸出先は、中国 69.0 百万トン（73.2%）、スペイン 4.2 百万トン（4.4%）、タイ 3.0 百万トン（3.2%）の順。

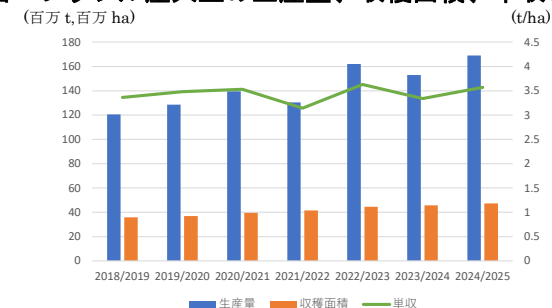
報道情報によれば、9 月中旬現在、アマゾン川流域では、降雨不足と干ばつにより河川の水位が記録的な水準に低下し、一部では輸出向け穀物を運ぶはしけの航行に支障をきたしている。ただし、商社等の情報によれば、アマゾン川経由での北部港からの輸出は主に EU、エジプト向けのため、我が国向け輸出の中心を占めるトラックや鉄道での南部港からの輸出への影響は小さいとみられる。

大豆－ブラジル

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、() は CONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	162.0	153.0	169.0 (166.1)	-	10.5	
消費量	57.2	58.6	58.1 (60.2)	-	▲ 0.8	
うち搾油用	53.4	54.7	54.0 -	-	▲ 1.3	
輸出量	95.5	104.2	105.5 (105.5)	0.5	1.3	
輸入量	0.2	0.9	0.2 (0.5)	-	▲ 82.8	
期末在庫量	36.8	28.0	33.5 (3.0)	▲ 0.5	19.8	
期末在庫率	24.1%	17.2%	20.5% (1.8%)	▲ 0.37	3.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	44.60	45.80	47.30 (47.36)	-	3.3	
単収(t/ha)	3.63	3.34	3.57 (3.51)	-	6.9	

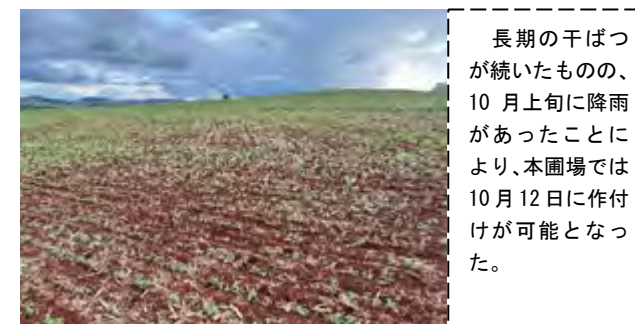
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
CONAB 「Graos」(14 November 2024)

図 ブラジル産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2024.11.8) をもとに農林水産省にて作成

写真 南部パラナ州の大豆の圃場風景 (2024 年 11 月 4 日撮影)



撮影者：Thiago Terabe

＜ カナダ ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 3.1%増加する見込み（AAFC）

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2024.11.19）によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度（7.0 百万トン）から 3.1%増の 7.2 百万トンの見込み。大豆価格が低下しているものの、大豆粕の需要と輸出は堅調であり、生産量は微増するとみられる。土壌水分量は現時点で十分とみられる。大豆の主産地であるカナダ東部では、収穫作業が終盤を迎えており、作柄は良好とみられる。

カナダ統計局「Model-based principal field crop estimates , August 2024」（2024.9.16）によれば、州別には、米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の生産量は、前年度に比べ 6.9%増の 4.3 百万トンの見込み。とうもろこし等の他作物より価格が有利な大豆の作付けを増加させたため収穫面積が増加することが主な要因とみられる。隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されており、マニトバ州では前年度より減産する一方、ケベック州では前年度より増産する見込み。

主要生産州の各州報告によれば、オンタリオ州では、10 月下旬現在、収穫進捗率は、州内の地域により異なるが、98%～100%と、収穫は概ね完了。マニトバ州では、10 月下旬現在、収穫進捗率は 98%と、収穫は概ね完了。

【需要状況】AAFC によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用等の需要の増加により前年度（2.2 百万トン）から 10.5%増の 2.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給増を受けて前年度（4.9 百万トン）より 6.1%増の 5.2 百万トンと史上 2 番目の高水準となる見込み。

カナダ穀物委員会によれば、2024/25 年度（2024 年 8～9 月）の輸出量は 10.4 万トンで、前年同期（0.02 万トン）を上回っている。国別では、アルジェリア 4.4 万トン（42.3%）、イスラエル 3.4 万トン（32.7%）、米国 1.6 万トン（15.4%）の順となっている。

なお、カナダ産大豆は、主産地がカナダ東部であるものの、通常日本向けは鉄道を利用して太平洋岸のバンクーバーを経由して輸出されるルートとなっている。

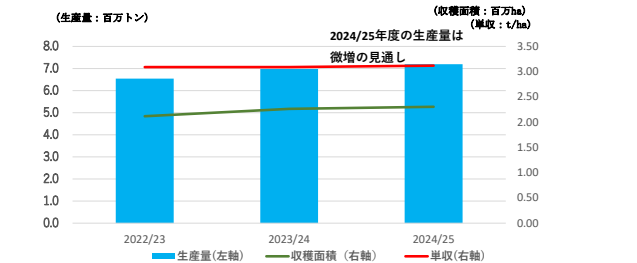
AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、輸出増を受けて前年度から 2.3%減の 0.6 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25（24年8月～25年7月）		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.5	7.0	7.2 (7.2)	-	3.1
消 費 量	2.7	2.3	2.9 (2.5)	-	25.1
うち搾油用	1.8	1.7	1.8 (1.9)	-	5.9
輸 出 量	4.2	4.8	4.6 (5.2)	0.3	▲ 5.1
輸 入 量	0.5	0.3	0.4 (0.5)	-	4.5
期末在庫量	0.4	0.6	0.7 (0.6)	▲ 0.04	17.8
期末在庫率	5.3%	7.9%	8.9% (7.2%)	▲ 0.9	1.0

(参考)
収穫面積(百万ha) 2.12 2.26 2.30 (2.31) - 1.8
単収(t/ha) 3.09 3.09 3.13 (3.12) - 1.3
資料：USDA「PS&D」
「World Agricultural Production」（8 November 2024）
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（19 November 2024）

図 カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」
（2024.11.19）をもとに農林水産省にて作成

表 カナダ産大豆の輸出量と輸出先国

2024年 8月～9月			2023/24年度 (2023年 8月～2024年 7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
アルジェリア	4.4	42.3	中国	143.9	41.4
イスラエル	3.4	32.7	アルジェリア	62.6	18.0
米国	1.6	15.4	イラン	54.6	15.7
ベルギー	0.9	8.7	オランダ	18.5	5.3
その他	0.1	1.0	その他	67.9	19.5
計	10.4	100.0	計	347.5	100.0

資料：カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省
にて作成

＜ 中国 ＞ 2024/25 年度の生産量は、前年度から 0.7%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が増加（対前年度比 0.3%増）するものの、単収が平年並みに戻り減少（対前年度比 1.0%減）すると見込まれることから、前年度より 0.7%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目に高い見込み。

全国秋収穫秋播種気象サービス（2024.10.25）によれば、10 月 24 日現在、収穫進捗率は 95.3%。全国農業気象月報（2024.11.5）によれば、主産地の黒龍江省等において、10 月は晴天が多く、大豆の収穫に適しているとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.9 百万トンと史上最高の見込み。ただし、業界情報によれば、直近では中国の経済成長が鈍化し、豚肉の価格が低迷する中、中国政府は 3 月から国内の養豚飼育数の生産目標を減らす供給過剰対策を開始しており、飼料用需要の減少につながるとの見方もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.7%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 7.2%増の 112.0 百万トンとなる見込み。なお、中国海関統計によれば、2024 年 1～9 月の輸入量は、前年同期より 8.1%増の 8,185.2 万トン。内訳は、ブラジル 6,224.1 万トン（76.0%）、米国 1,454.7 万トン（17.8%）、アルゼンチン 223.3 万トン（2.7%）の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 9 月号」によると、9 月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、前月（3,760 元/トン）から小幅に上昇し、3,880 元/トン。9 月の国内価格は、新穀の供給を受け、5,100 元/トンと前月（5,140 元/トン）から小幅に下落した。

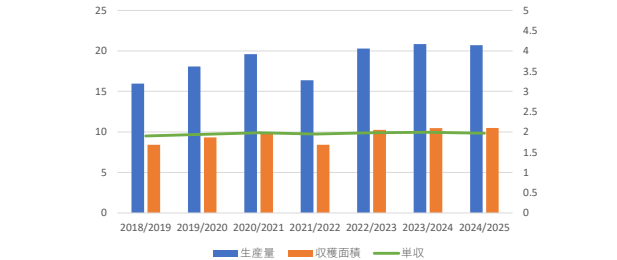
USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 6.2%増の 46.0 百万トンと史上最高の見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度より 0.7 ポイント増の 36.2%となる見込み。

大豆－中国

年 度	2022/23	2023/24 （見込み）	2024/25（24年10月～25年9月）		
			（単位：百万トン）		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.3	20.8	20.7 (20.1)	-	▲ 0.7
消費量	117.5	121.8	126.9 (127.8)	-	4.2
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (105.8)	-	4.0
輸出量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9
輸入量	104.5	112.0	109.0 (108.5)	-	▲ 2.7
期末在庫量	32.3	43.3	46.0 (46.9)	-	6.2
期末在庫率	27.5%	35.5%	36.2% (36.7%)	-	0.7
（参考）					
収穫面積(百万ha)	10.24	10.47	10.50 (10.16)	-	0.3
単収(t/ha)	1.98	1.99	1.97 (1.97)	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
IGC「Grain Market Report」(17 October 2024)

図 中国産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移
(百万 t, 百万 ha) (t/ha)



資料：USDA「PS&D」(2024.11.8)をもとに農林水産省にて作成

表 中国の大豆輸入量と輸入先国

2024年 1 月～9 月			2023年 1 月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	6,224.1	76.0	ブラジル	6,993.0	70.7
米国	1,454.7	17.8	米国	2,374.3	24.0
アルゼンチン	223.3	2.7	アルゼンチン	199.2	2.0
カナダ	99.8	1.2	カナダ	146.6	1.5
ウクライナ	61.4	0.7	ロシア	129.3	1.3
ロシア	52.6	0.6	南アフリカ	14.7	0.1
その他	69.4	1.0	その他	38.6	0.4
計	8,185.2	100.0	計	9,895.7	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 5.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、大豆の収益性が高まることで農家がとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせる見通しを受けて、前年度から 5.8%増の 51.0 百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2024.11.13)によれば、11 月上旬、南部では降雨があり、発芽に好影響を与えた一方、中部では乾燥傾向が続いている。11 月 7 日現在、作付進捗率は 12%。9 月の乾燥により表土が乾燥しており、10 月に降雨がみられたものの、作付けの進展には更なる降雨が必要とされる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比 8.7%増の 47.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 23.0%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 11.9%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

なお、2024 年 1～9 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 435.1 万トンで前年同期（110.7 万トン）の約 4 倍。輸出先は、中国 391.9 万トン（90.1%）、米国 9.9 万トン（2.3%）、チリ 4.3 万トン（1.0%）の順で、4 月以降、中国向け輸出が急増している。

2023 年 12 月 10 日に右派のミレイ政権が誕生した。同 12 日に経済相は通貨ペソの公式レートを現行の 1 ドル＝350 ペソから 50%以上切り下げ、1 ドル＝800 ペソにした。

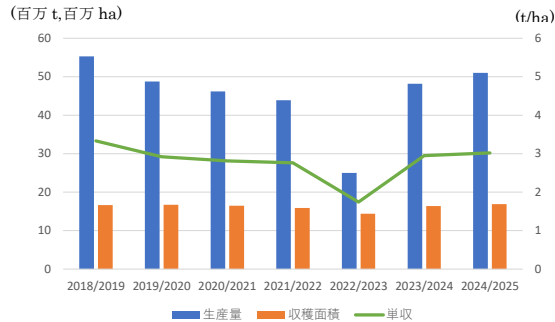
アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定。ミレイ政権においても、輸出税は引き続き維持されている。

大豆ーアルゼンチン

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	25.0	48.2	51.0 (51.5)	-	5.8	
消 費 量	36.6	43.8	47.6 (48.8)	-	8.7	
うち搾油用	30.3	36.6	40.0 (42.3)	-	9.4	
輸 出 量	4.2	5.1	4.5 (5.7)	-	▲ 11.9	
輸 入 量	9.1	7.8	6.0 (5.3)	-	▲ 23.0	
期末在庫量	17.0	24.1	29.0 (12.5)	▲ 0.4	20.3	
期末在庫率	41.7%	49.2%	55.6% (22.9%)	▲ 0.7	6.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	14.40	16.37	16.90 (17.00)	-	3.2	
単収(t/ha)	1.74	2.95	3.02 (3.03)	-	2.4	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(8 November 2024)
IGC「Grain Market Report」(17 October 2024)

図 アルゼンチン産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA「PS&D」(2024.11.8)をもとに農林水産省にて作成

表 アルゼンチンの大豆輸出量と輸出先国

(輸出量：万 t、シェア：%)

2024年 9 月			2024年 1 月～9 月		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	26.6	50.9	中国	391.9	90.1
チリ	0.3	0.5	米国	9.9	2.3
米国	0.1	0.2	チリ	4.3	1.0
その他	25.3	48.4	その他	26.9	6.2
計	52.2	100.0	計	435.1	100.0

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）をもとに
農林水産省にて作成

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について（2024/25年度）

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

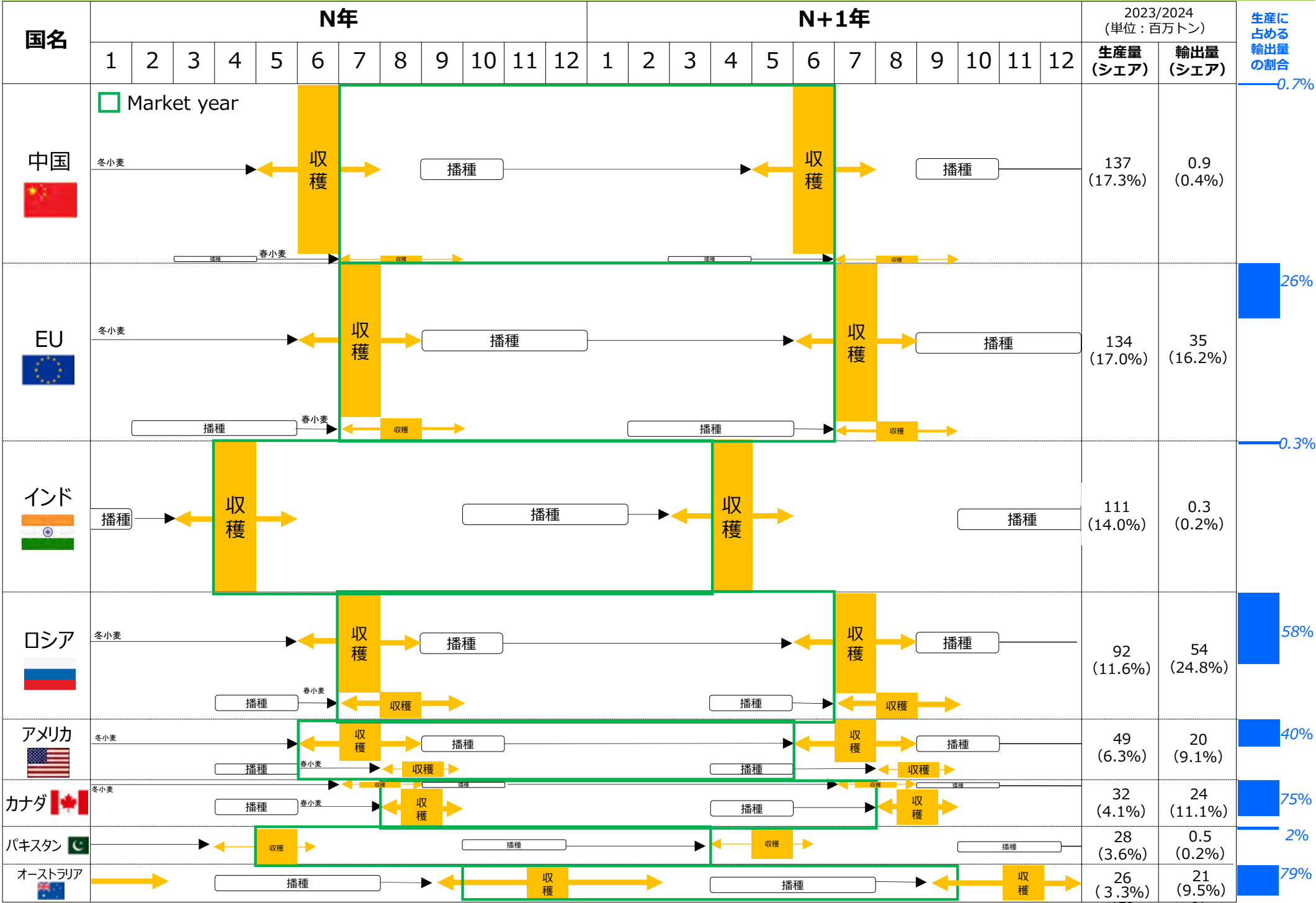
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



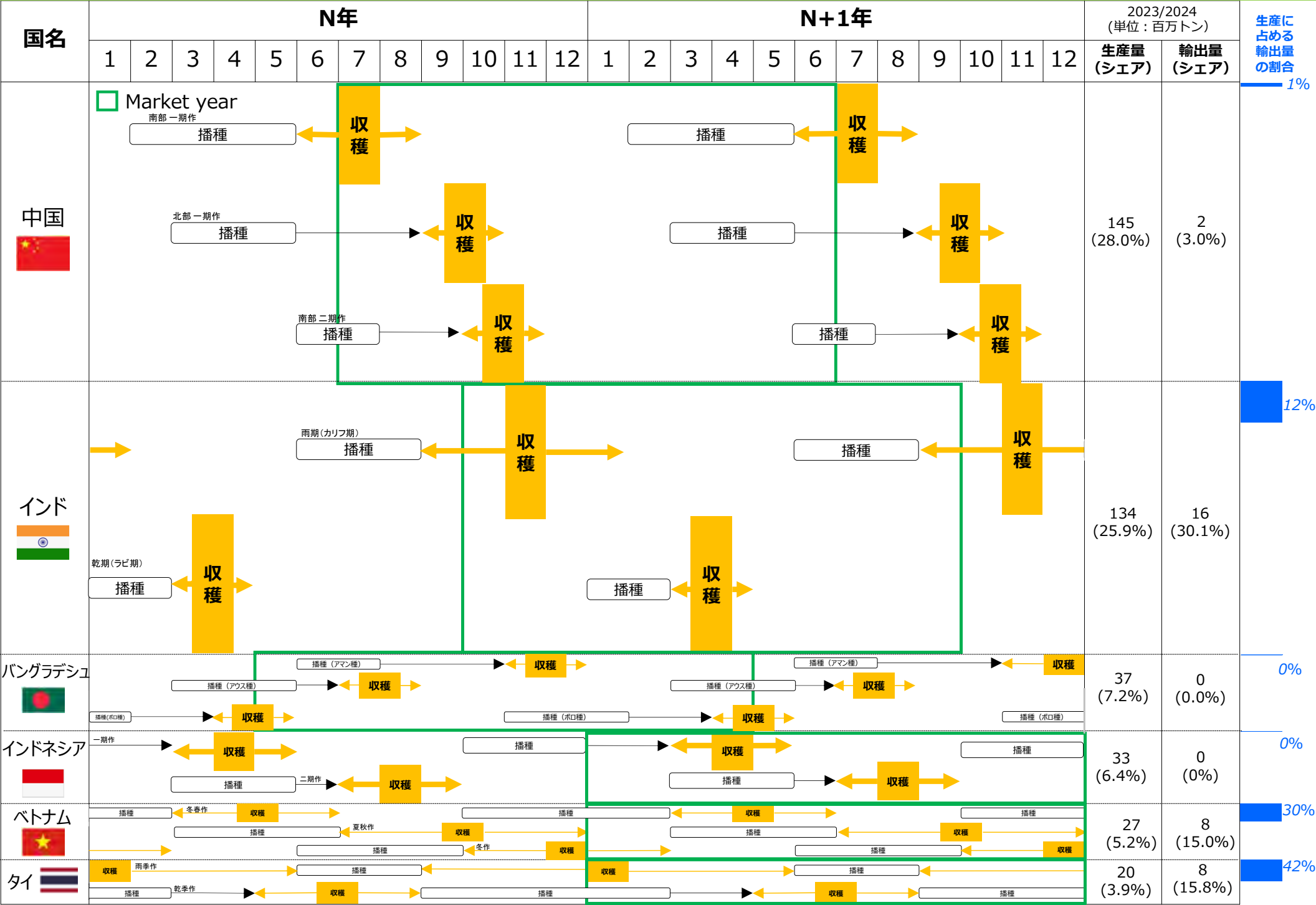
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他：179 (22.8%) 61 (28.4%)

主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendar」、「PS&D」(2024.5) 注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：122 (23.5%) 19 (36.1%)

主要生産国のクロップカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出品 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出品 (シェア)	
アメリカ 	□ Market year								播種 → 収穫												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%				
中国 	播種 → 春作 → 収穫												播種 → 収穫												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%
ブラジル 	夏とうもろこし → 播種 → 収穫												播種 → 収穫												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%
EU 	播種 → 冬とうもろこし → 播種 → 収穫												播種 → 収穫												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%
アルゼンチン 	播種 → 収穫												播種 → 収穫												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%
インド 	乾期(ラビ期) → 播種 → 収穫												雨期(カリフ期) → 播種 → 収穫												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
ブラジル 	□ Market year ← 収穫 →									播種 → ← 収穫 →												154 (38.8%)	102 (59.1%)	66%			
アメリカ 	播種 → ← 収穫 →									播種 → ← 収穫 →												113 (28.6%)	46 (26.8%)	41%			
アルゼンチン 	播種 → 早植え → ← 収穫 → 播種 → 遅植え → ← 収穫 →									播種 → ← 収穫 → 播種 → ← 収穫 →												50 (12.6%)	5 (2.7%)	9%			
中国 	播種 → ← 収穫 →												播種 → ← 収穫 →												21 (5.3%)	0.1 (0.1%)	0.5%

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」（2024.5）注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。その他：

59 (14.8%)	20 (11.3%)
---------------	---------------

主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
EU 	□ Market year						収穫											収穫							20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%
	→							播種	→										播種	→							
カナダ 							収穫											収穫							19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%
	播種 →							→	→										→	→							
中国 	→						収穫											収穫							15 (17.4%)	0 (0%)	0%
	→							播種	→										播種	→							
インド 	→						収穫											収穫							13 (14.1%)	0 (0%)	0%
	→							播種	→										播種	→							
オーストラリア 	播種 →						収穫											収穫							6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%
	→							播種	→										播種	→							
ウクライナ 	→						収穫											収穫							4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%
	→							播種	→										播種	→							
ロシア 	播種 →						収穫											収穫							4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%
	→							播種	→										播種	→							

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2024 年 11 月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度 2024/25 年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。



https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html